

平成24年度県民満足度等調査

結果報告書

(防災対策についてのみ抜粋)

岡山県総合政策局政策推進課

受託者：財団法人岡山経済研究所

目次

調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 実施概要.....	1
3. 回収状況.....	1
4. 集計データの見方.....	1
I. あなたご自身について.....	2
問1.....	2
III 防災対策について.....	5
問3.....	5
問4.....	7
問5.....	9
問6.....	11
問7.....	16
問8.....	17
問9.....	21
問10.....	22
問11.....	25
問12.....	28
問13.....	30
問14.....	32

調査の概要

1. 調査の目的

第3次おかやま夢づくりプランに基づいて実施する施策によって、県民の満足度がどの程度向上するかを把握することを目的に、アンケート調査を実施した。また、満足度調査に併せて、プランには掲げていないが同等の満足度を表す6項目の調査と、年度毎に設定するテーマに関するアンケート調査を実施した。

2. 実施概要

- | | |
|---------|---|
| (1)調査区域 | 岡山県全域 |
| (2)調査対象 | 20才以上の県内在住者 |
| (3)標本数 | 2,500通(発送数) |
| (4)抽出方法 | 二段階無作為抽出 |
| | ①該当年齢(20才以上)人口比率により、県下全市町村ごとの割当サンプル数を決定 |
| | ②各市町村ごとに住民基本台帳からの無作為抽出 |
| (5)調査方法 | 郵送配布・郵送回収による郵送調査法
督促状(葉書)1回発送 |
| (6)調査期間 | 平成24年5月31日(木)～6月25日(月) |

3. 回収状況

- | | |
|----------|---------------|
| (1)発送数 | 2,500通 |
| (2)回収数 | 1,465通 |
| (3)有効回収数 | 1,462通(58.5%) |
| (4)無効回収数 | 3通 |

4. 集計データの見方

(1)回答比率

回答比率は、原則としてその設問の回答者数(無回答を含む)を母数として算出した。クロス集計に関しては、分類別の回答者数を母数としている。

(2)小数点以下の表記

回答比率は、小数点以下第2位を四捨五入し、百分率(%)で表示している。そのため、比率の合計が100%にならないことがある。

(3)平均点について

問2、問19、問20、問21では、回答の傾向をより視覚的に表現するため、各選択肢で提示していた得点に各選択肢の回答者数を乗じ、無回答及び0点を除いた回答者数で除した値を平均点とした。ただし問21では、地域活動への参加状況をよりの確に表現するため、無回答を除いた(0点を加えた)回答者数で除した値を平均点とした。平均点の表示では、小数点以下第3位を四捨五入している。

I. あなたご自身について

問 1

あなたご自身についてお聞きします。平成24年6月1日現在でお答えください。

(1)性別

性	n	%
1 男性	532	36.4
2 女性	821	56.2
無回答	109	7.5
合計	1,462	100.0

(2)年齢

年齢	n	%
1 20～24歳	41	2.8
2 25～29歳	84	5.7
3 30～34歳	93	6.4
4 35～39歳	127	8.7
5 40～44歳	111	7.6
6 45～49歳	114	7.8
7 50～54歳	103	7.0
8 55～59歳	121	8.3
9 60～64歳	175	12.0
10 65～69歳	158	10.8
11 70～74歳	137	9.4
12 75歳以上	192	13.1
無回答	6	0.4
合計	1,462	100.0

<参考>岡山県の年齢別人口構成

年齢	%
1 20～24歳	6.1
2 25～29歳	6.6
3 30～34歳	7.2
4 35～39歳	8.9
5 40～44歳	8.0
6 45～49歳	6.9
7 50～54歳	7.0
8 55～59歳	7.7
9 60～64歳	10.4
10 65～69歳	7.8
11 70～74歳	7.0
12 75歳以上	16.4
合計	100.0

注：平成23年10月1日現在

資料：岡山県統計調査課「岡山県毎月流動人口調査」

(3)世帯構成

世帯構成	n	%
1 ひとり暮らし	187	12.8
2 夫婦のみ	345	23.6
3 親・子の二世帯	635	43.4
4 親・子・孫の三世帯	237	16.2
5 その他	47	3.2
無回答	11	0.8
合計	1,462	100.0

注：その他として記入されていたのは、四世代(9件)、祖父母と孫(6件)、兄弟・姉妹(5件)、老人ホーム等の施設(5件)など

(4)同居の子どもの有無

同居の子どもの有無	n	%
1 子どもがいる	671	45.9
2 子どもはいない	769	52.6
無回答	22	1.5
合計	1,462	100.0

(5)子どもの成長段階

子どもの成長段階	n	%
1 小学校入学前	139	20.7
2 小学生	160	23.8
3 中学生	94	14.0
4 高校生・大学受験生	112	16.7
5 短大、大学、大学院、専門学校などの学生	55	8.2
6 社会人	283	42.2
7 その他	20	3.0
無回答	9	1.3
合計	671	100.0

注：その他として記入されていたのは、家事手伝い、定年退職している、障害者、病人(各1件)など

(6)お住まいの市町村

市町村	n	%	市町村	n	%
1 岡山市	495	33.9	15 浅口市	30	2.1
2 倉敷市	345	23.6	16 和気町	13	0.9
3 津山市	81	5.5	17 早島町	7	0.5
4 玉野市	42	2.9	18 里庄町	12	0.8
5 笠岡市	39	2.7	19 矢掛町	11	0.8
6 井原市	36	2.5	20 新庄村	3	0.2
7 総社市	54	3.7	21 鏡野町	11	0.8
8 高梁市	26	1.8	22 勝央町	8	0.5
9 新見市	30	2.1	23 奈義町	4	0.3
10 備前市	33	2.3	24 西粟倉村	3	0.2
11 瀬戸内市	33	2.3	25 久米南町	6	0.4
12 赤磐市	22	1.5	26 美咲町	17	1.2
13 真庭市	41	2.8	27 吉備中央町	10	0.7
14 美作市	28	1.9	無回答	22	1.5
			合計	1,462	100.0

<参考>地域別構成

地域	n	%
1 備前地域	648	44.3
2 備中地域	590	40.4
3 美作地域	202	13.8
無回答	22	1.5
合計	1,462	100.0

(7)県内での通算の居住年数

県内での通算の居住年数	n	%
1 5年未満	50	3.4
2 5年以上10年未満	50	3.4
3 10年以上20年未満	112	7.7
4 20年以上	1,233	84.3
無回答	17	1.2
合計	1,462	100.0

(8)職業

職業	n	%
1 自営業（農林漁業、商工サービス業などで、家族従業者を含む）	164	11.2
2 会社・団体などの正社員（正職員）	401	27.4
3 会社・団体などの役員	40	2.7
4 パートタイマー、アルバイト、契約社員など	230	15.7
5 専業主婦（主夫）	230	15.7
6 学生	11	0.8
7 無職	372	25.4
無回答	14	1.0
合計	1,462	100.0

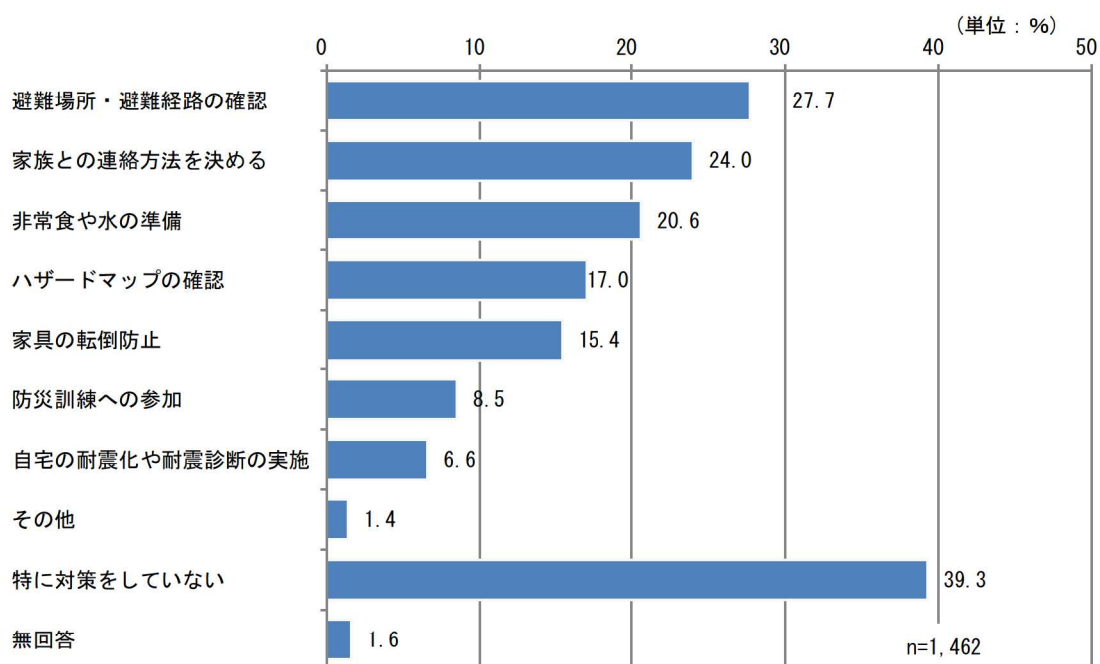
Ⅲ 防災対策について

問3

あなたが実施している災害に対する備えについて、あてはまる番号の全てに○印をつけてください。

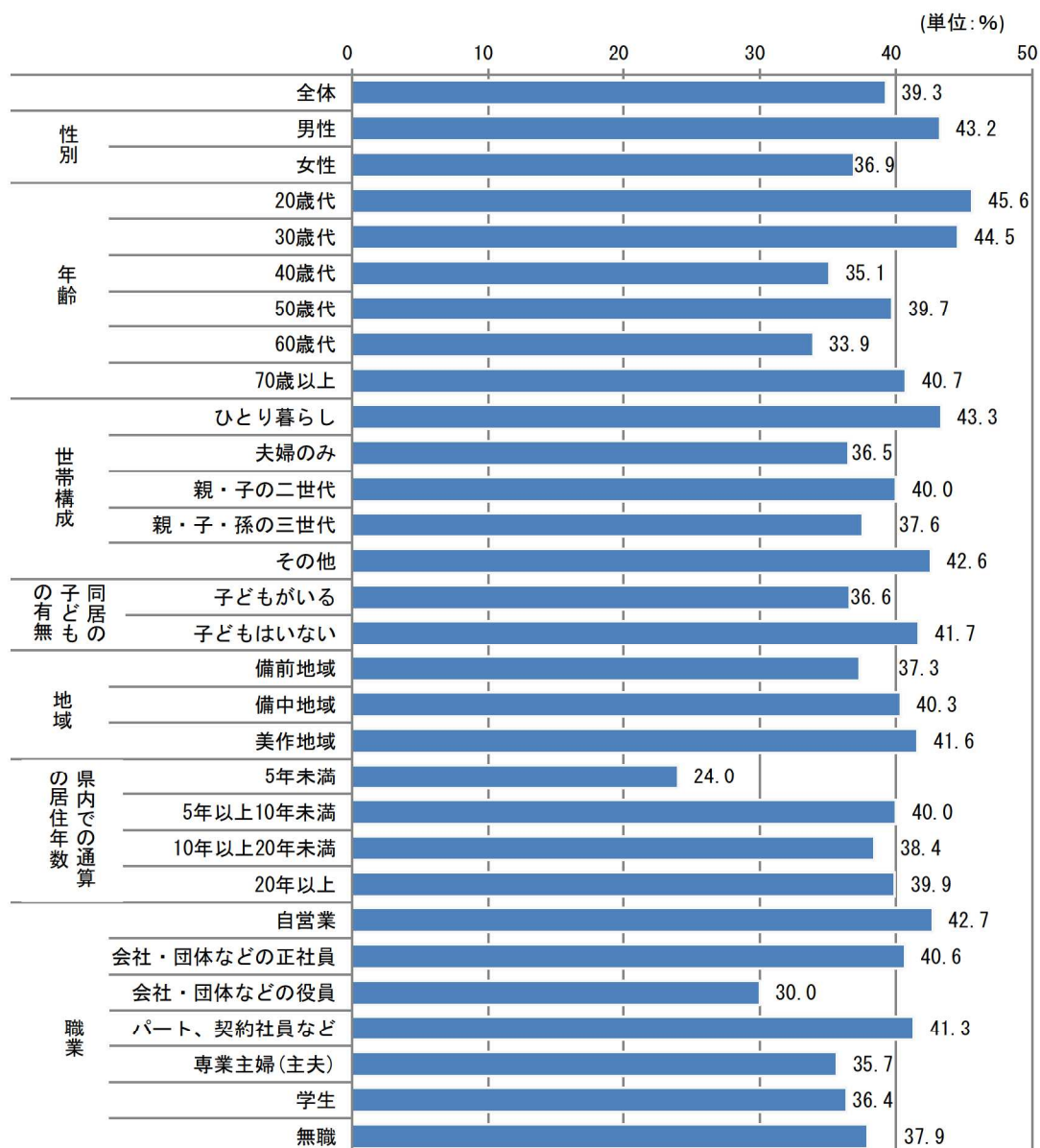
防災対策は、「特に対策をしていない」(39.3%)が最多である。実際にとっている対策としては、「避難場所・避難経路の確認」(27.7%)、「家族との連絡方法を定める」(24.0%)、「非常食や水の準備」(20.6%)などが多い。

実施している防災対策(複数回答)



注: その他として記入されていたのは、「非常用持ち出し袋」(2件)、「防災グッズ」「放射能汚染対策」「本人証明と飲んでいる薬の名前」「意識をする」(各1件)など

「特に対策をしていない」と回答した者の属性別割合



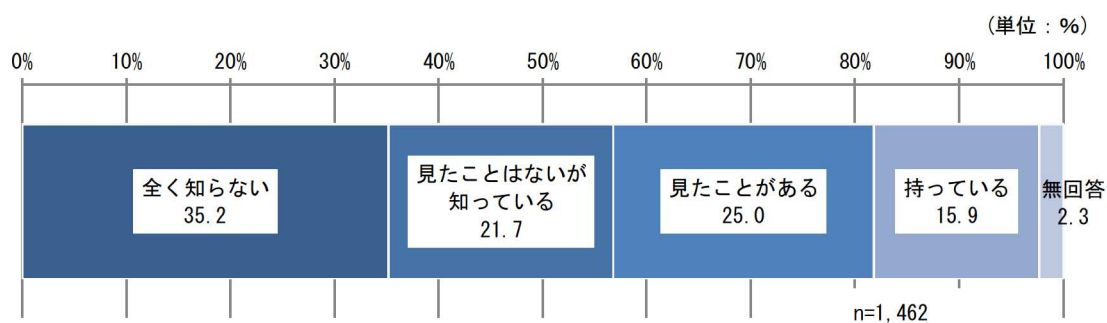
「特に対策をしていない」と回答した者を属性別にみると、女性(36.9%)より男性(43.2%)で多く、年齢別にみると20歳代(45.6%)、30歳代(44.5%)の比較的若い層が多い。また、同居の子どもがいる世帯(36.6%)より、同居の子どもがいない世帯(41.7%)の方が多。

問 4

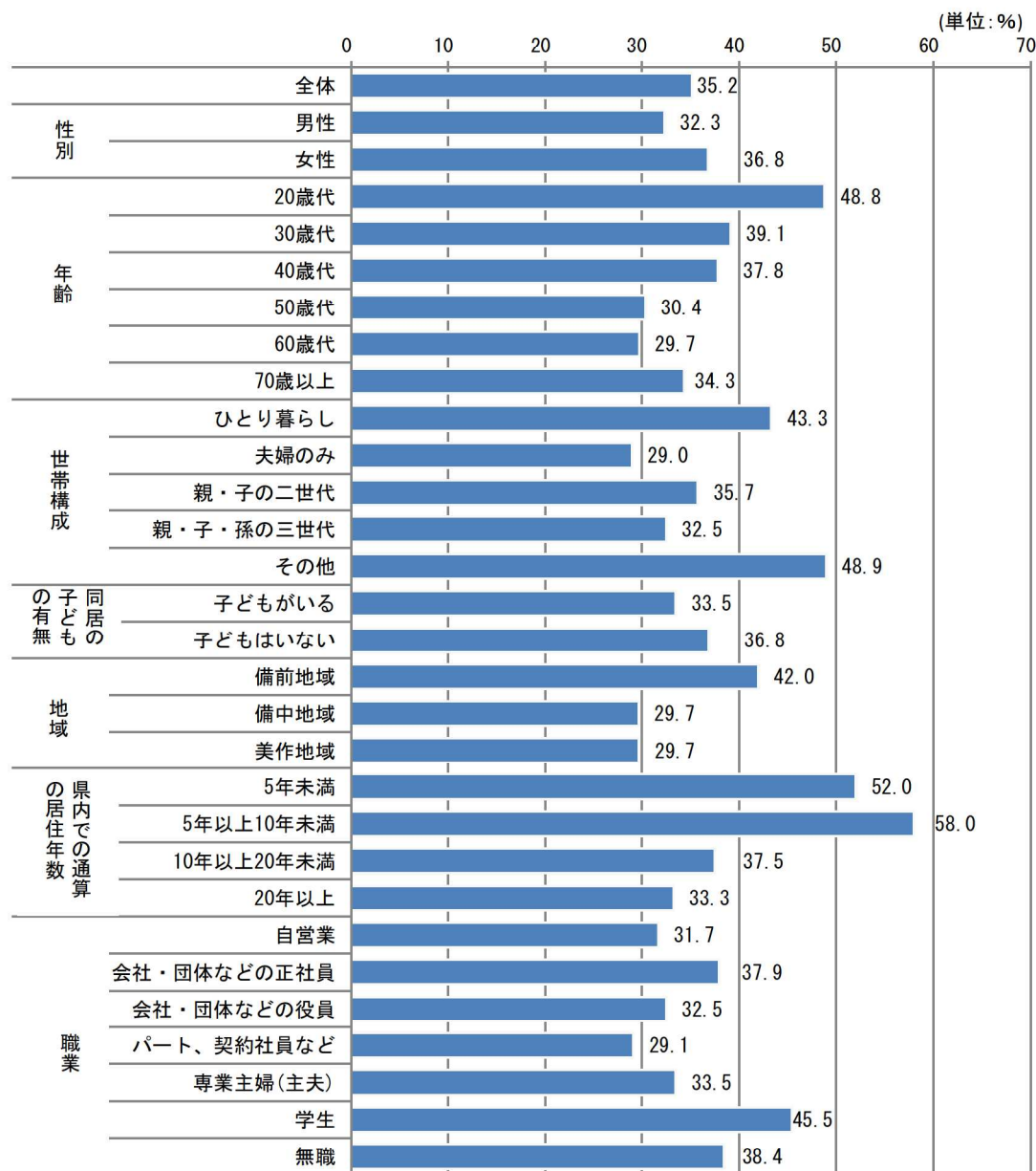
あなたは地域のハザードマップを持っていますか。また、持っていない場合は見たことやその存在を知っていますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

ハザードマップを「持っている」(15.9%)、「見たことがある」(25.0%)、「見たことはないが知っている」(21.7%)の合計は 62.6%であり、約6割はハザードマップに関する何らかの知識がある。一方、35.2%はハザードマップを「全く知らない」。

ハザードマップの保有状況



「全く知らない」と回答した者の属性別割合



「全く知らない」と回答した者を属性別にみると、20歳代(48.8%)や備前地域(42.0%)の居住者、県内での通算の居住年数10年未満など比較的居住年数の短い層で全く知らない者が多い。

ハザードマップの保有に関して属性による回答状況の差が最も大きく表れているのは地域であり、備中地域；美作地域と比較して、備前地域において認知度が低い。備前地域の中で属性による回答状況の差が最も大きく表れているのは県内での通算の居住年数であり、居住年数10年以上の者と比較して、10年未満の者の認知度が低い。

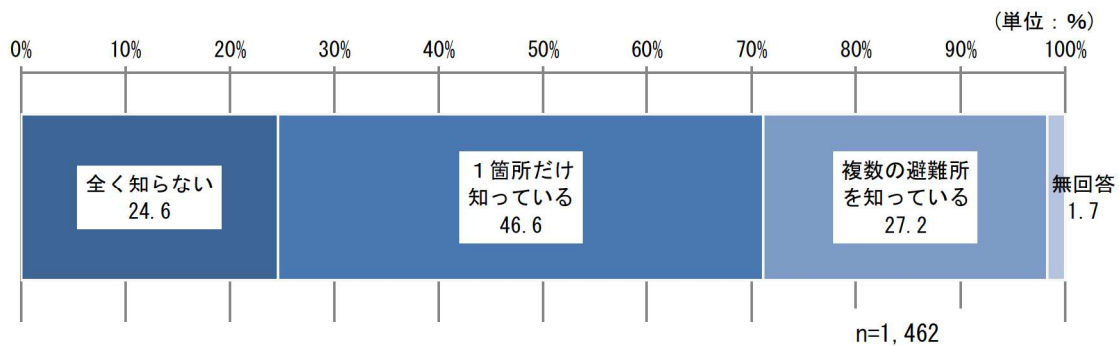
この結果から、ハザードマップの普及を図るには、備前地域で重点的に取り組むこと、他地域からの転入時に交付することなどが効果的であることが分かる。

問5

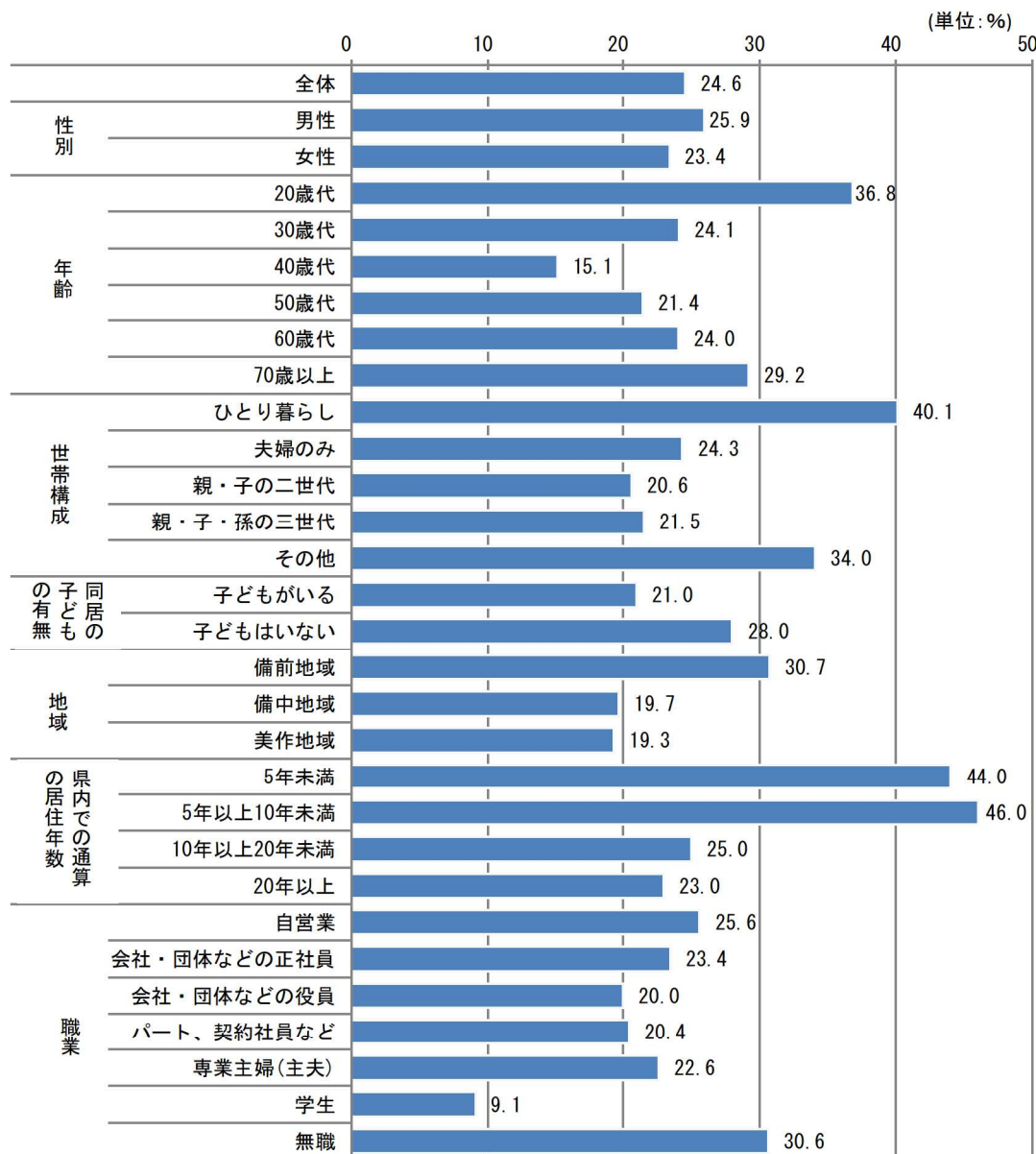
災害が起きた時の避難所がどこにあるかご存じですか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

「複数の避難所を知っている」(27.2%)を含む4分の3は、避難所の場所を知っている。一方、「全く知らない」(24.6%)者も4分の1存在する。

避難所の認知度



「全く知らない」と回答した者の属性別割合



避難所を「全く知らない」と回答した者を属性別にみると、20歳代(36.8%)、ひとり暮らし(40.1%)や、県内での通算の居住年数10年未満など比較的居住年数の短い層で全く知らない者が多い。これは、ハザードマップを全く知らないと回答した者と同様の傾向である。

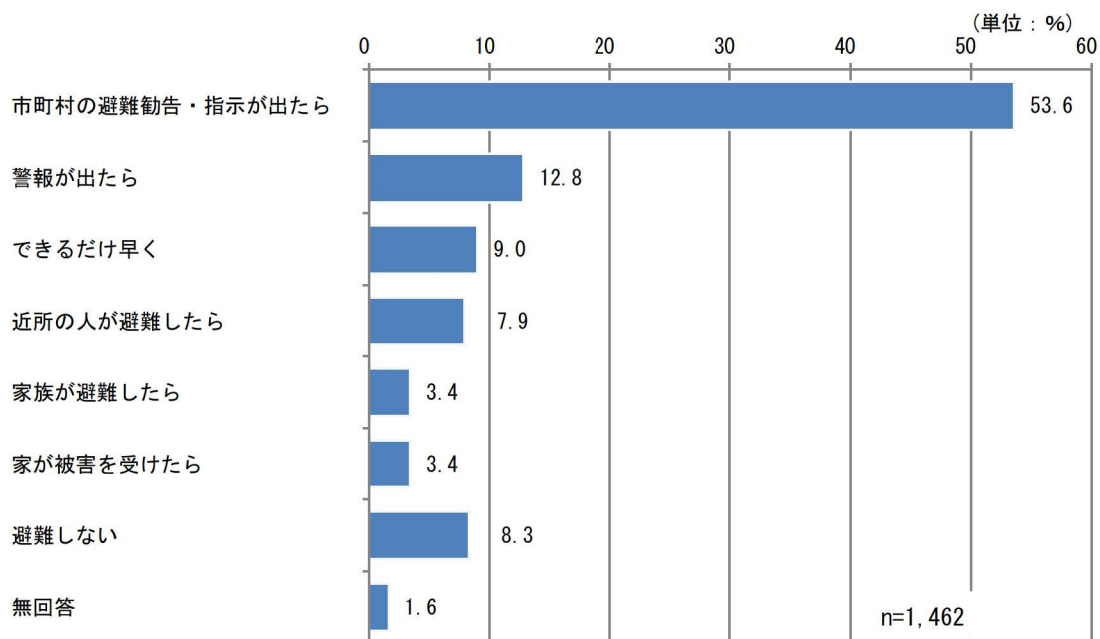
避難所の認知度に関して、属性による回答状況の違いが最も大きく表れているのは、世帯構成であり、親・子・孫の三世帯；親・子の二世帯では認知度が高いのに対し、ひとり暮らし；その他の認知度が低い。ひとり暮らし；その他の中で属性による回答状況の差が最も大きく表れているのは地域であり、備中地域；美作地域と比較して、備前地域の認知度が低い。

問6

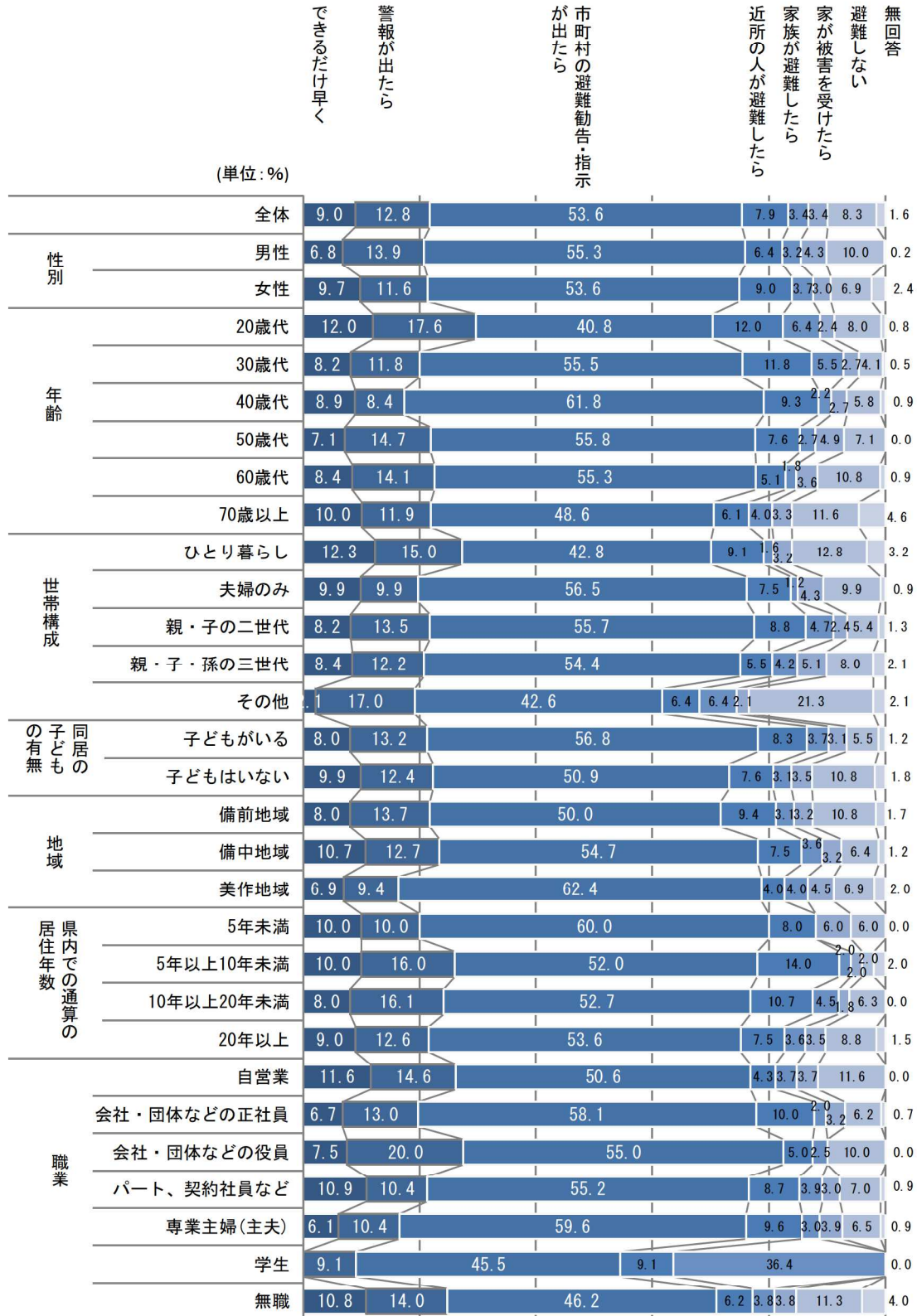
津波の襲来や台風の接近している時、あなたはどの段階で避難しますか。最もあてはまる番号1つに○印をつけてください。

津波の襲来や台風の接近している時の避難時期は、「市町村の避難勧告・指示が出たら」(53.6%)が過半数を占めている。

台風等による避難時期

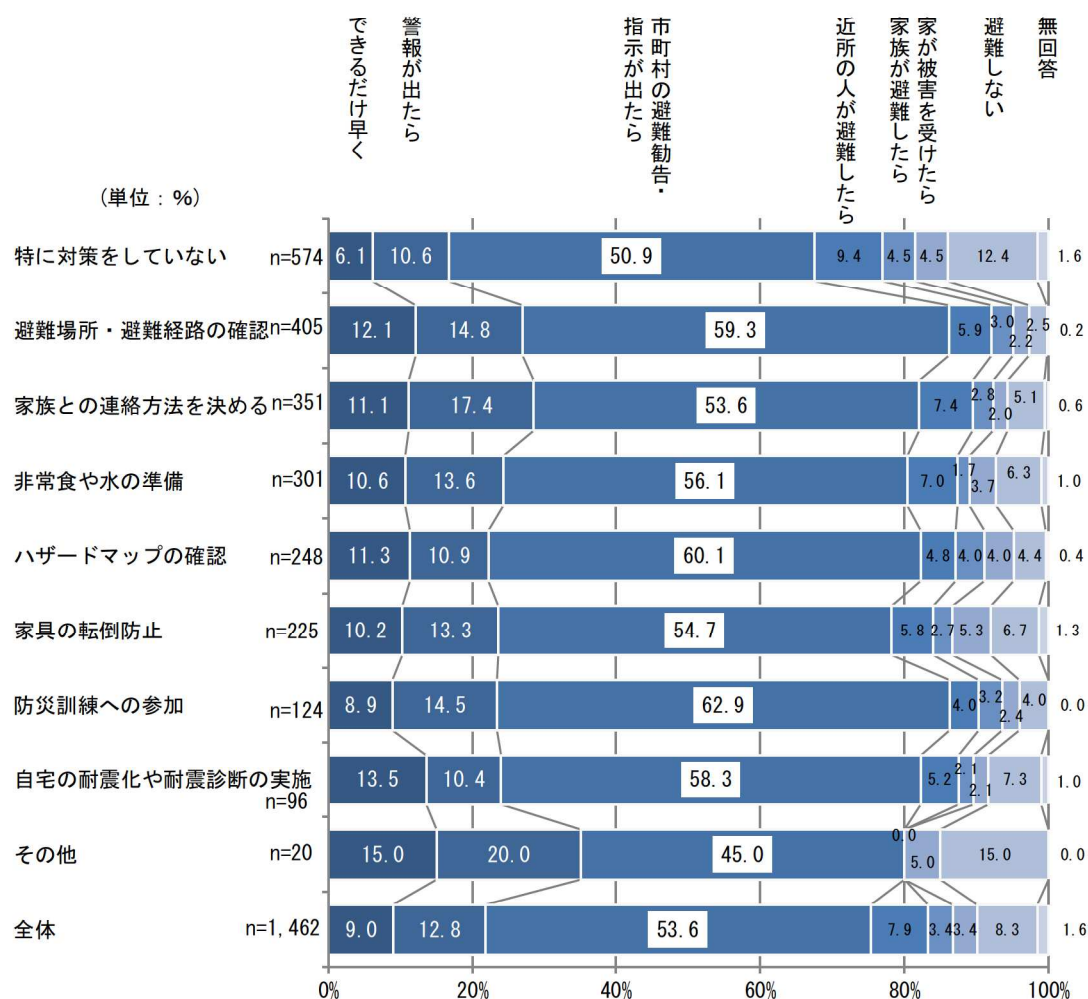


台風等による避難時期の属性別割合



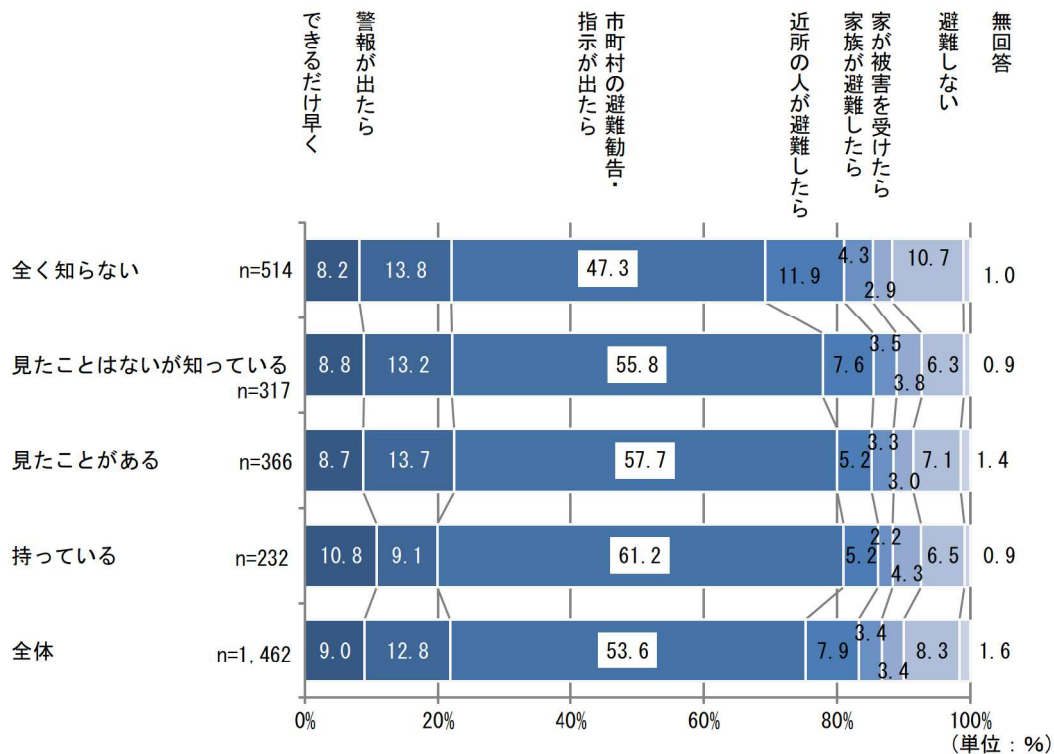
台風等による避難時期を属性別にみると、女性は男性よりやや早い。60歳以上は避難しない者が相対的に多い。ひとり暮らし世帯は市町村の避難勧告・指示よりも早い時期で避難する者が比較的多く、子どもがいる世帯では市町村の避難勧告・指示を重視する傾向がある。地域別にみると、美作地域で市町村の避難勧告・指示を重視する傾向がある。

防災対策と避難時期(台風等)の関係



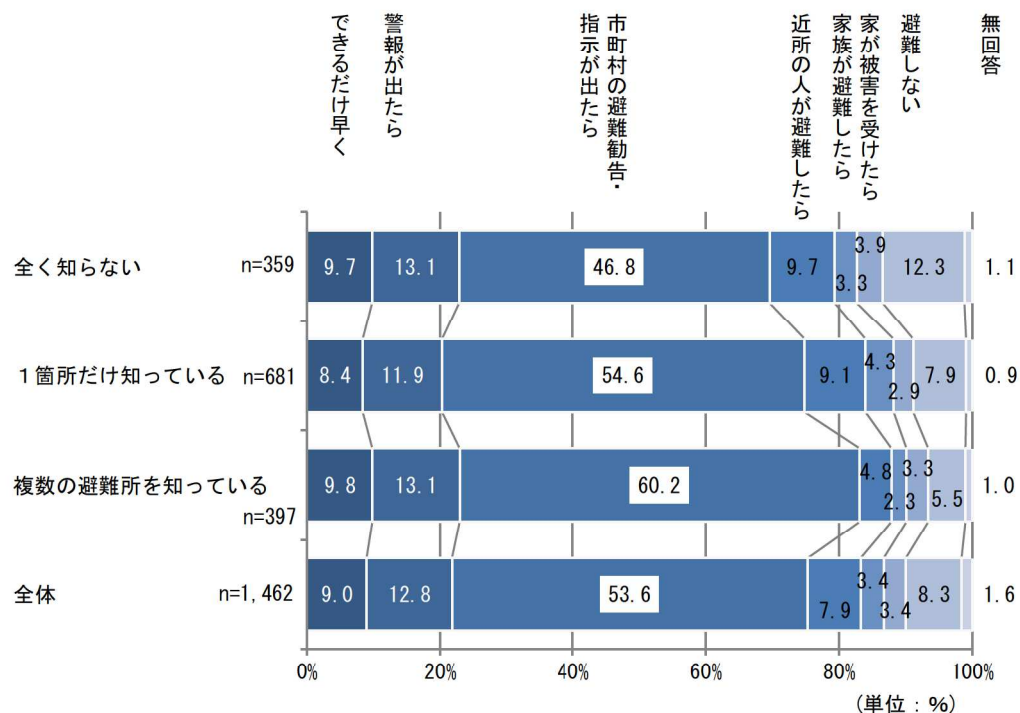
問3の災害に対する備えの有無と問6の台風等による避難時期の関係をみるために、クロス集計を実施した。災害に対する備えを「特に対策をしていない」層において、大半の者は台風等の接近時、避難する意向を持っている。しかし、何らかの防災対策をとっている層と比較すると、「避難しない」(12.4%)者が若干多い。また、避難する意向を持っている者も、避難に動く時期がやや遅い傾向がある。

ハザードマップの認知度と避難時期(台風等)の関係



問4のハザードマップの認知度と問6の台風等による避難時期の関係をみるために、クロス集計を実施した。台風等の接近時、ハザードマップを「全く知らない」者は、何らかの知識がある者と比較して、「市町村の避難勧告・指示が出たら」避難する者がやや少なく、「近所の人が避難したら」避難する者や「避難しない」者がやや多い傾向がある。

避難所の認知度と避難時期(台風等)の関係



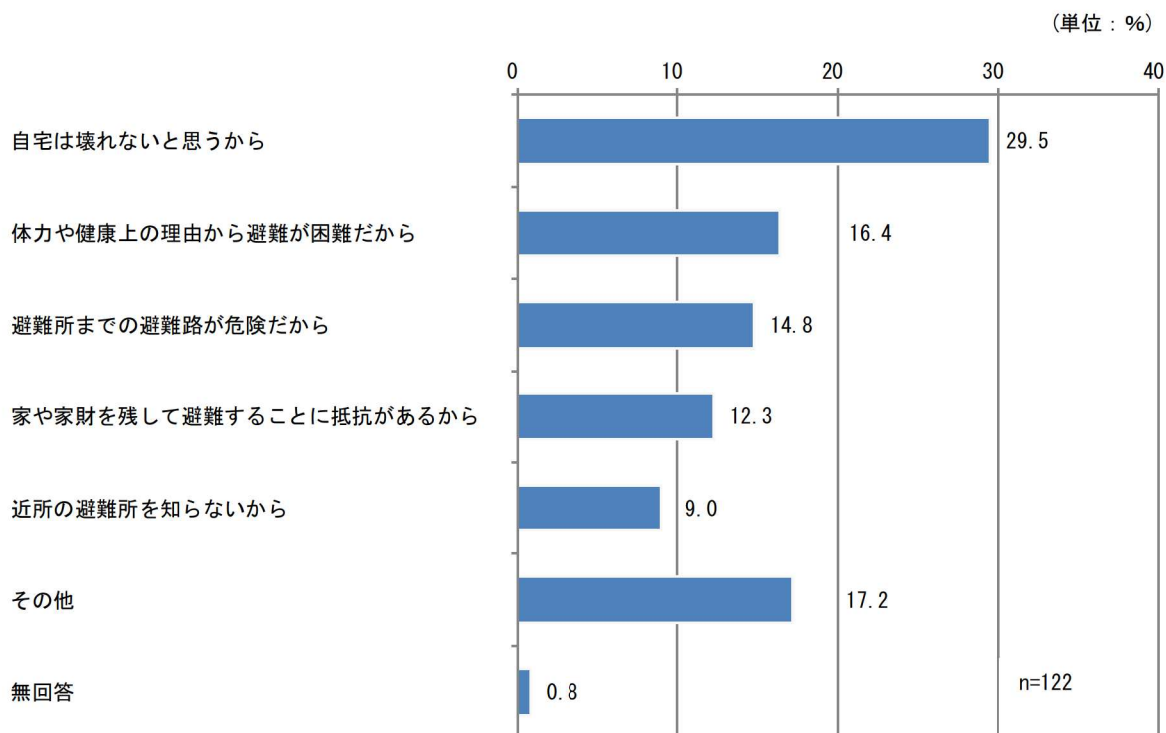
問5の避難所の認知度と問6の台風等による避難時期の関係をみるために、クロス集計を実施した。台風等の接近時、避難所を「全く知らない」者は、知っている者と比較して、「市町村の避難勧告・指示が出たら」避難する者がやや少なく、「避難しない」者がやや多い傾向がある。

問7

問6で「避難しない」と答えた方に伺います。あなたが避難しない理由で、最もあてはまる番号1つに○印をつけてください。

津波や台風が接近しても避難しない理由は、「自宅は壊れないと思うから」(29.5%)が最多である。

津波や台風等で避難しない理由



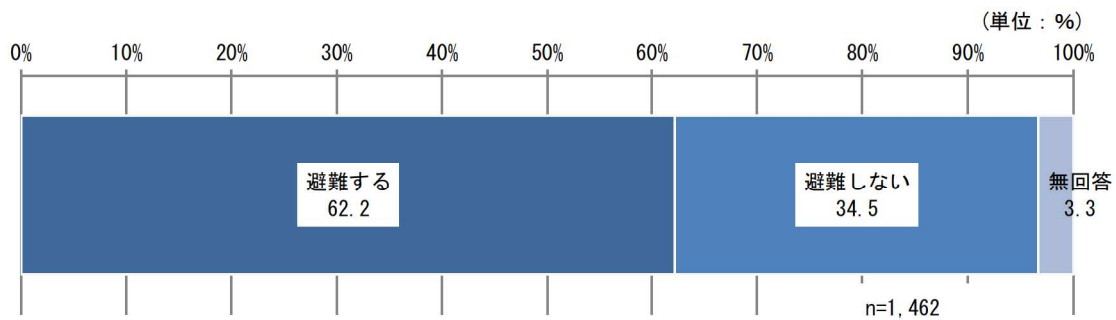
注：その他として記入されていたのは、「避難所が安全とはいえないから」(6件)、「身障者がいるから」「災害時住民の避難を支援する立場にいるから」「ペットを連れて行けないから」「避難所が遠すぎるから」「心配していない」(各2件)

問 8

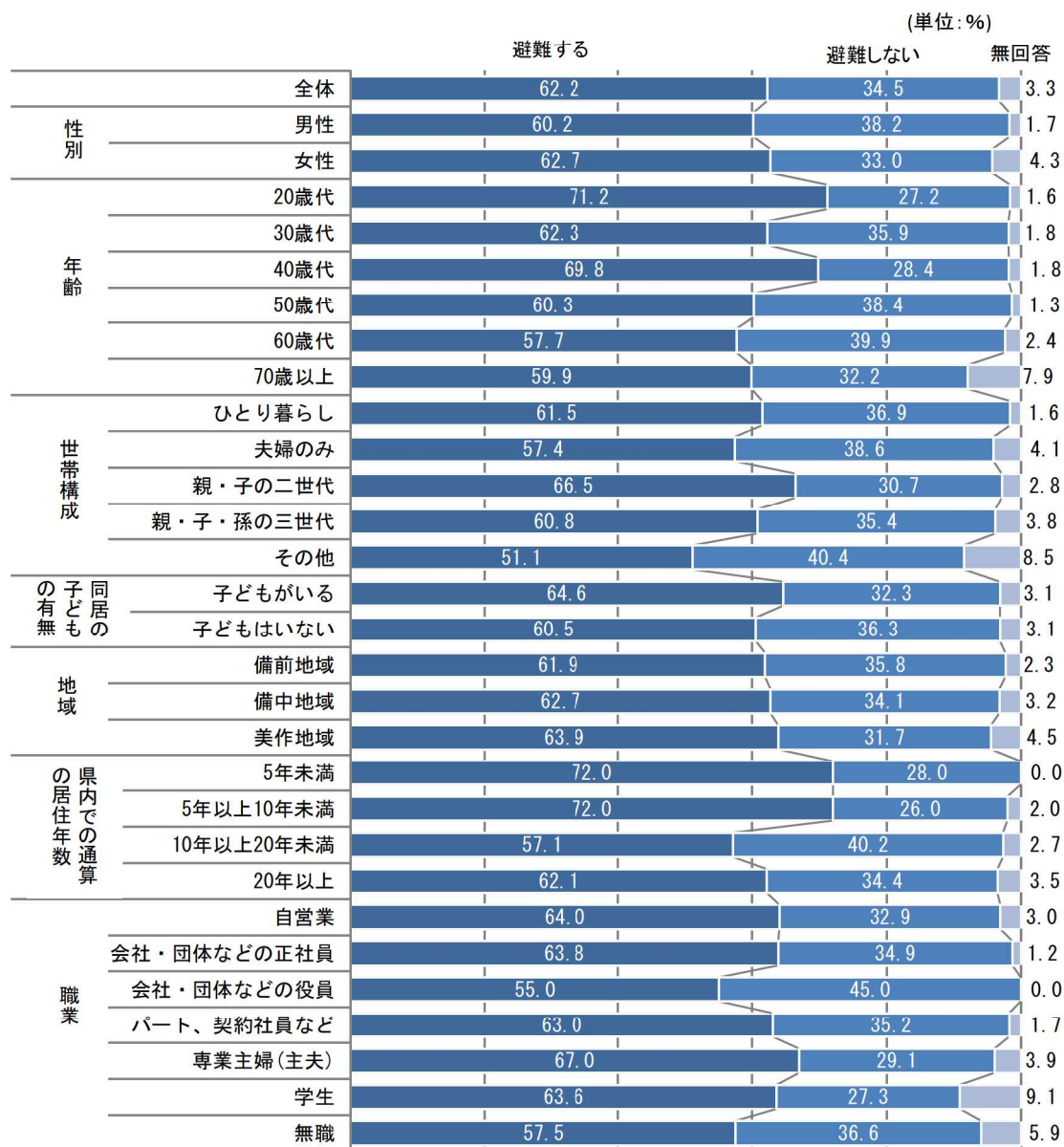
あなたが自宅にいたときに、経験したことのないような大きな揺れに襲われたとします。その揺れが収まった直後、あなたは避難しますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

大地震直後の対応は、「避難する」(62.2%)者が過半数を占めたものの、「避難しない」(34.5%)者も3分の1強いて、少なくない。

大地震直後の対応

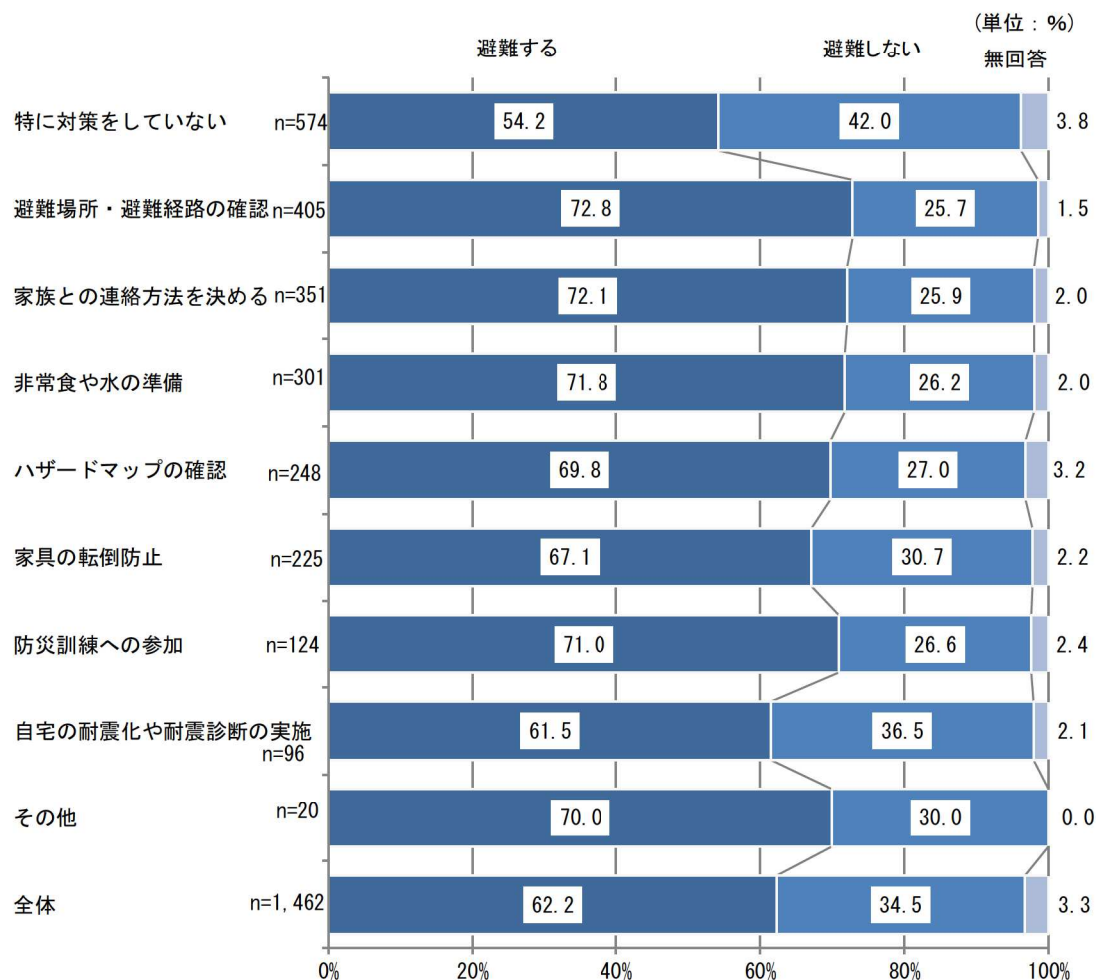


大地震直後の対応の属性別割合



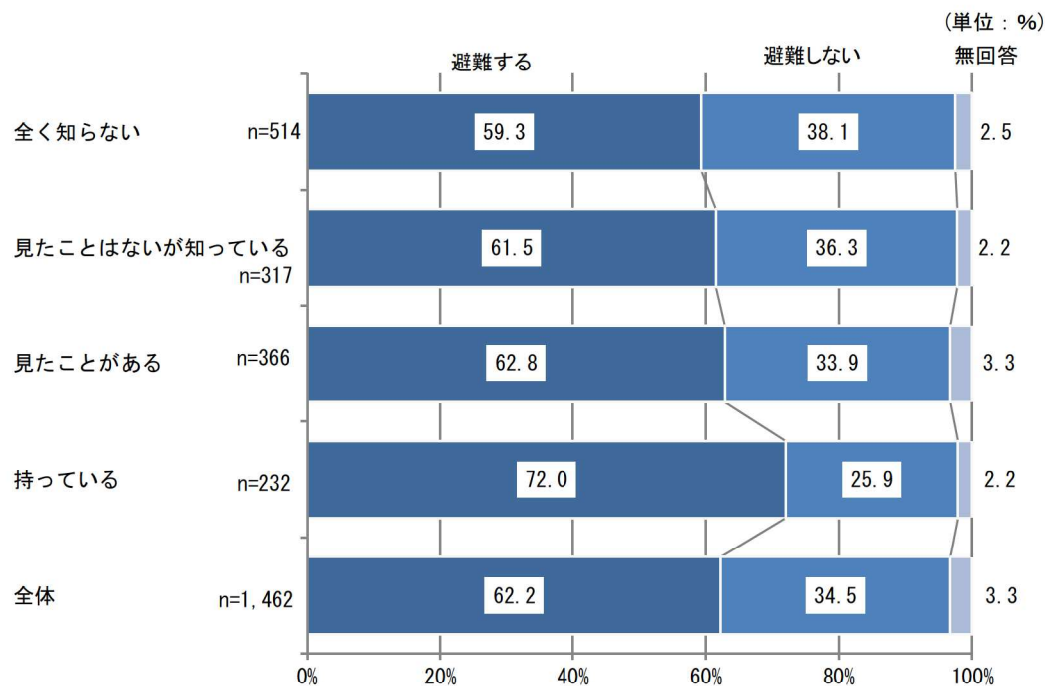
大地震直後の対応を属性別にみると、20歳代(71.2%)、40歳代(69.8%)で避難する者が多い。また、県内での通算の居住年数10年未満で避難する者が多い。

防災対策と避難行動(地震等)の関係



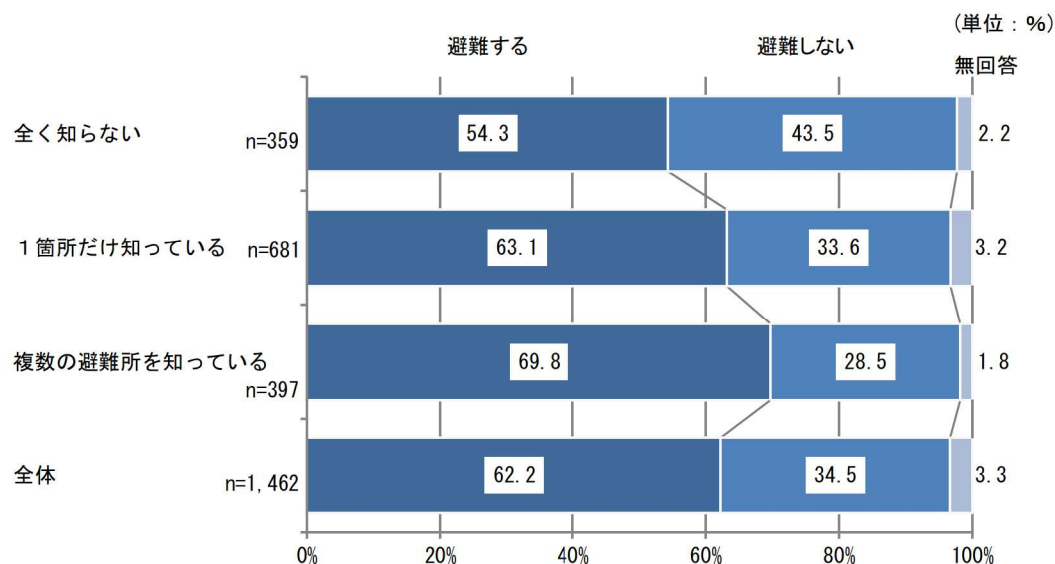
問3の災害に対する備えの有無と問8の大地震直後の対応の関係をみるために、クロス集計を実施した。災害に対して「特に対策をしていない」者は、何らかの防災対策をとっている者と比較して、経験したことのないような大きな揺れに襲われた直後、「避難する」(54.2%)者が少ない。

ハザードマップの認知度と避難行動(地震等)の関係



問4のハザードマップの認知度と問8の大地震直後の対応の関係をみるために、クロス集計を実施した。ハザードマップを「持っている」者は、持っていない者と比較して、経験したことの少ないような大きな揺れに襲われた直後、「避難する」者が多い。

避難所の認知度と避難行動(地震等)の関係



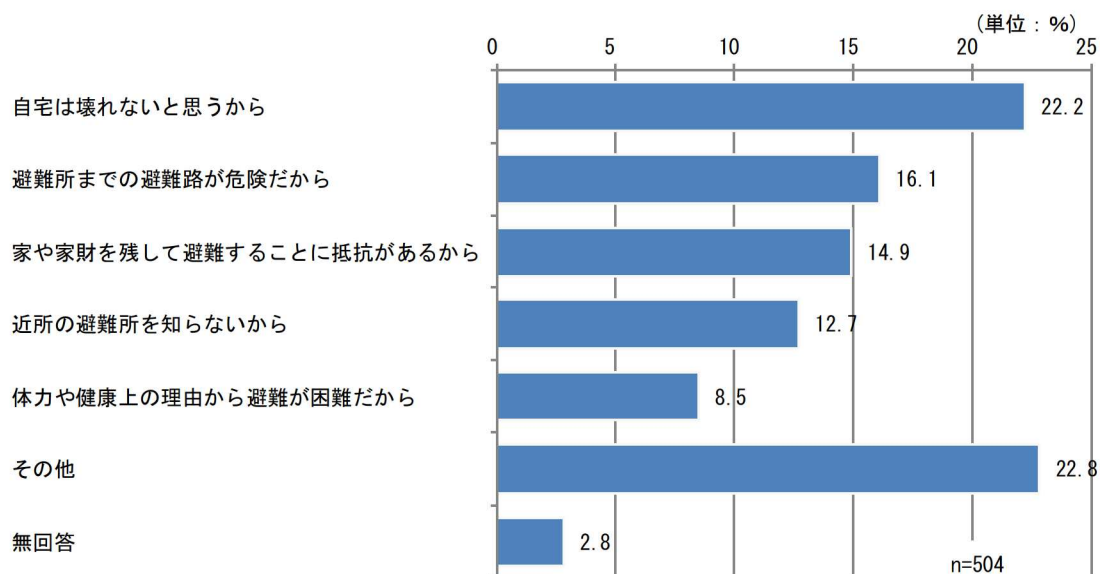
問5の避難所の認知度と問8の大地震直後の対応の関係をみるために、クロス集計を実施した。経験したことの少ないような大きな揺れに襲われた直後、避難所を全く知らない者より1箇所だけ知っている者の方が避難する者が多く、複数の避難所を知っている者では、さらに避難する者が多い。

問9

問8で「避難しない」と答えた方に伺います。あなたが避難しない理由で、最もあてはまる番号1つに○印をつけてください。

大地震直後に避難しない理由は、「自宅は壊れないと思うから」(22.2%)が最多であった。次いで「避難所までの避難路が危険だから」(16.1%)、「家や家財を残して避難することに抵抗があるから」(14.9%)となった。

大地震直後に避難しない理由



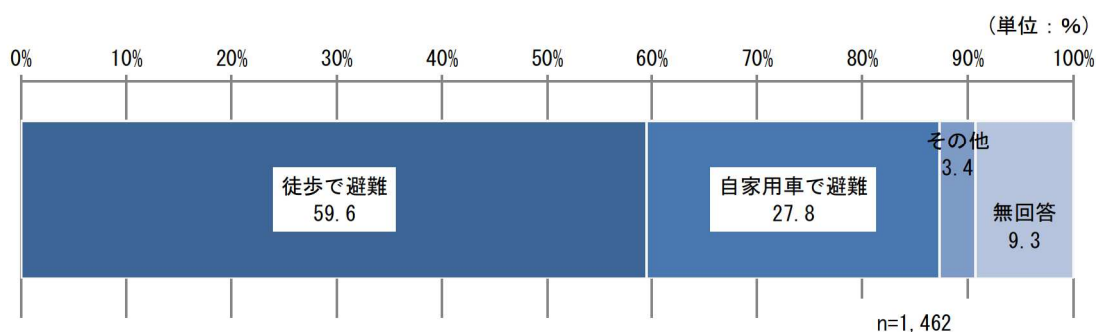
注：その他として記入されていたのは、「状況・様子を見るから」(25件)、「情報収集するから」「揺れが収まったらもういいと思うから」(各11件)、「避難勧告等を確認してから行動するから」(8件)、「自宅に被害がなければ自宅にいるから」(5件)、「自宅は周囲より安全だから」「避難を支援するため出動するから」(各4件)、「家族の帰宅を待つから」「身障者がいるから」「ペットがいるから」「避難の必要を感じないから」(各2件)など

問10

台風や地震等の災害により避難が必要となった場合、あなたはどのような手段で避難しますか。また、その手段で避難する理由は何ですか。それぞれ最もあてはまる番号1つに○印をつけてください。

避難する手段は「徒歩で避難」(59.6%)、「自家用車で避難」(27.8%)であり、総じて徒歩で避難する者が多い。

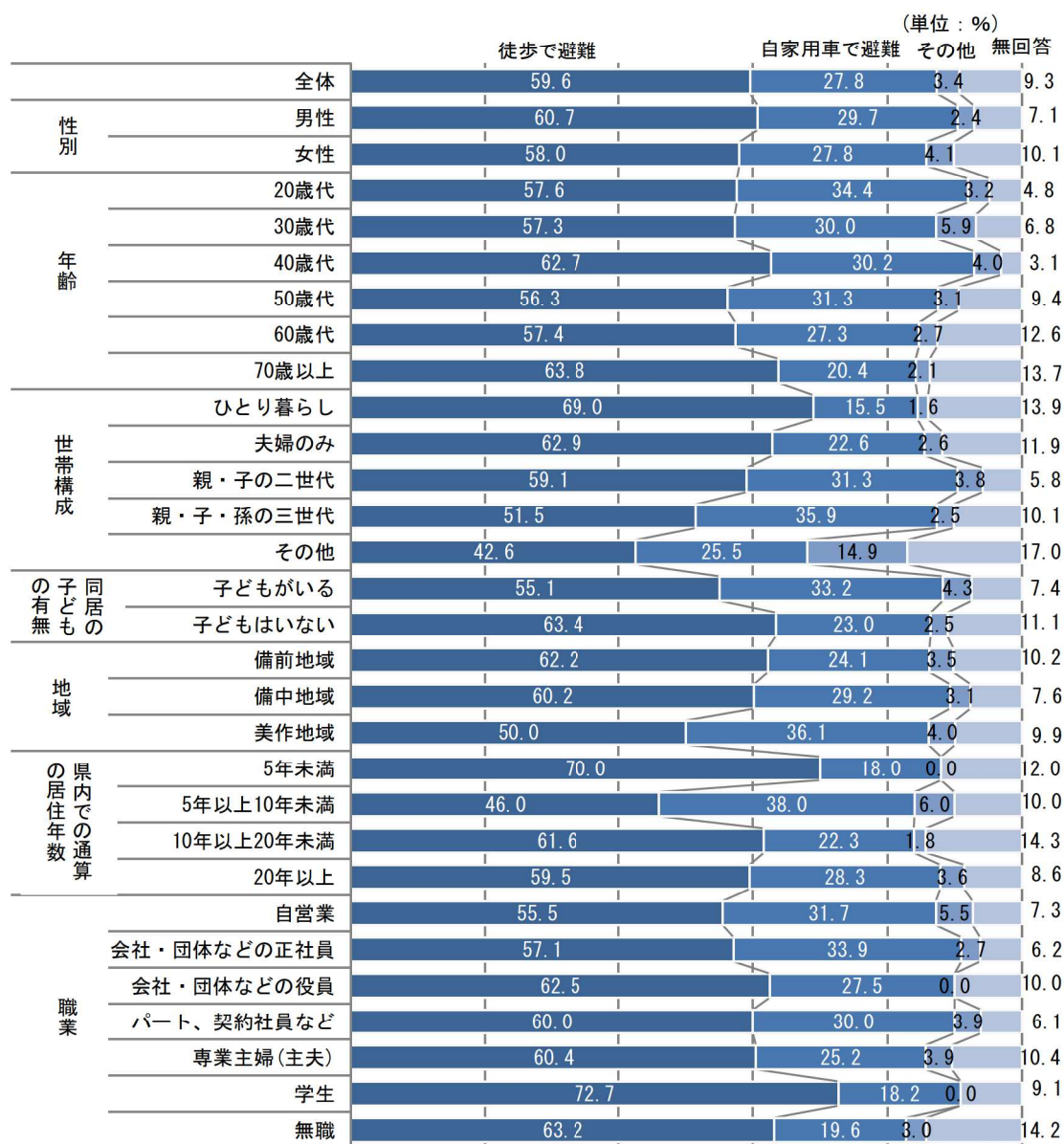
災害時の避難の手段



注：その他として記入されていたのは、

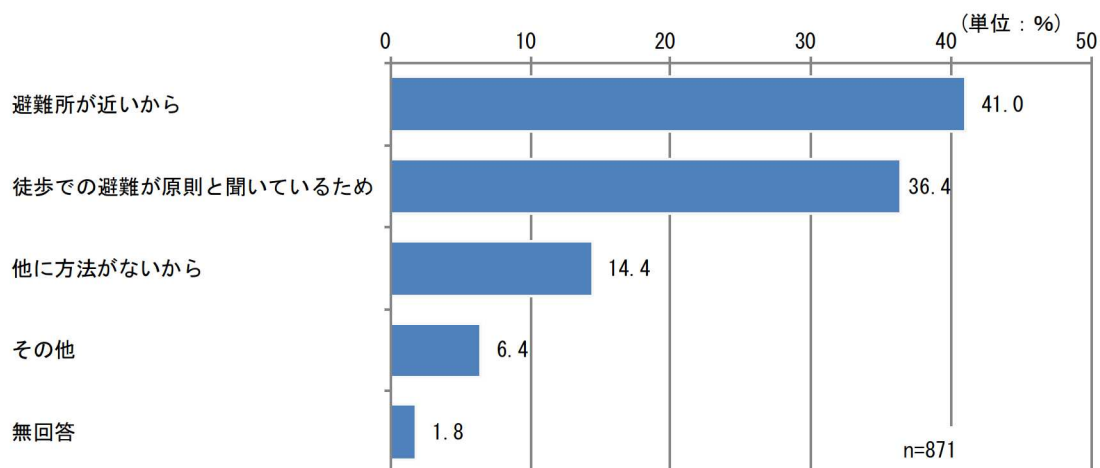
「その時の状況により判断する」(13件)、「自転車」(7件)……理由：小回りがきくから、荷物、子供を乗せることができるから、「その時にならないとわからない」(4件)、「地震なら徒歩、台風なら車」(2件)、「バイク」(2件)……ある程度の物が運べ、より遠くへ移動可能だから、「わからない」(2件)……避難場所を知らないため など

避難する手段の属性別割合



避難する手段を属性別にみると、世帯構成別では親・子・孫の三世帯世帯(35.9%)や同居の子どもがいる世帯(33.2%)では、自家用車で避難する者が相対的に多い。手のかかる子どもや老人を抱えている世帯では、自家用車が有力な避難の手段となっているとみられる。地域別にみると、美作地域(36.1%)で、自家用車で避難する者が相対的に多い。自宅から避難所までの距離が遠い場合には、自家用車を利用して移動しなければ、かえって危ないケースもあるとみられる。

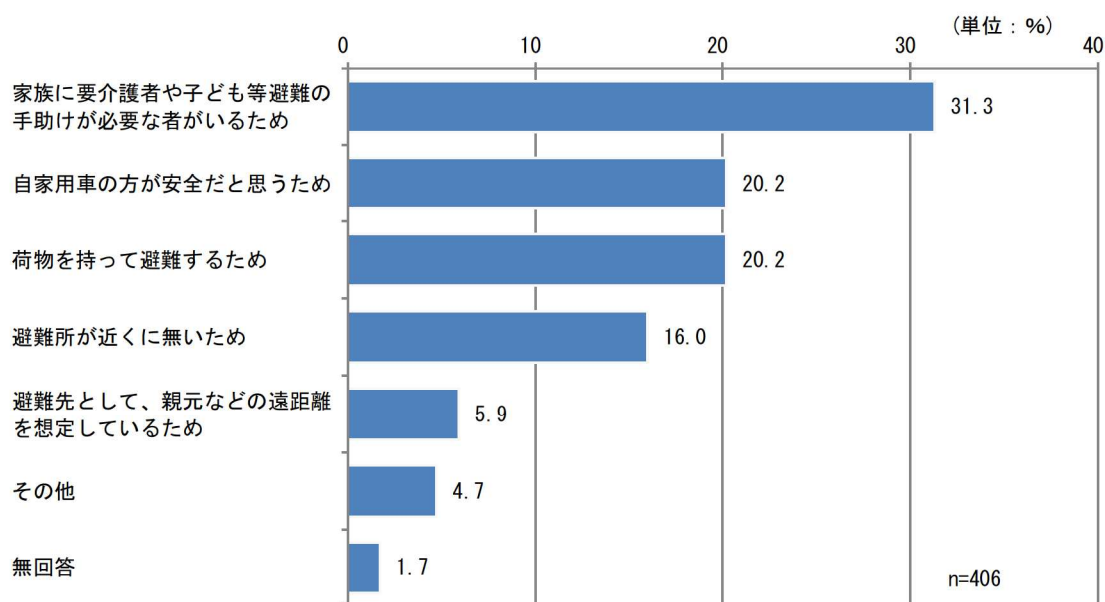
徒歩で避難する理由



注：その他として記入されていたのは、「車は渋滞するから」（16件）、「一番安全だから」「道路の安全状況がわからないから」（各8件）、「身軽で自由に動けるから」「避難所に駐車場所がないから」（各3件）、「車（免許）を持っていないから」（2件）など

徒歩で避難する理由としては、「避難所が近いから」（41.0%）、「徒歩での避難が原則と聞いているため」（36.4%）が多い。

自家用車で避難する理由



注：その他として記入されていたのは、「体が不自由なので」（4件）、「避難後の移動手段を確保しておく必要があるため」「車中泊が可能でプライバシーを確保できるため」「ペットを連れて行くため」（各3件）、「幼い子どもを2人以上抱えているため」（2件）など

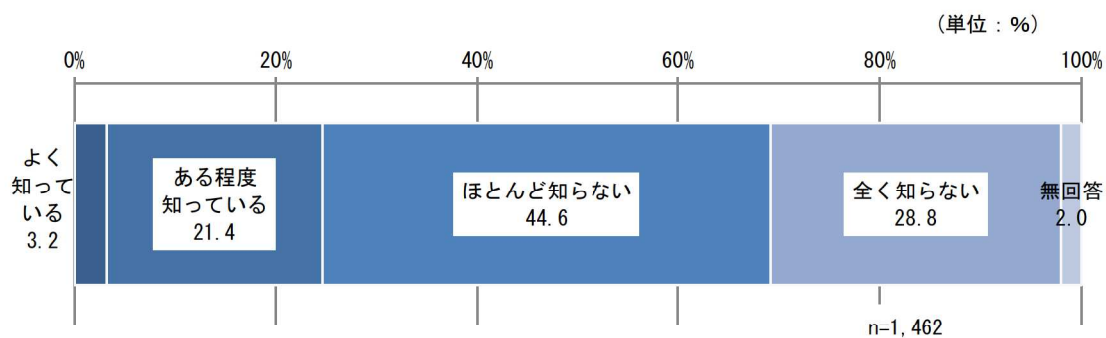
自家用車で避難する理由としては、「家族に要介護者や子ども等避難の手助けが必要な者がいるため」（31.3%）が多い。

問 1 1

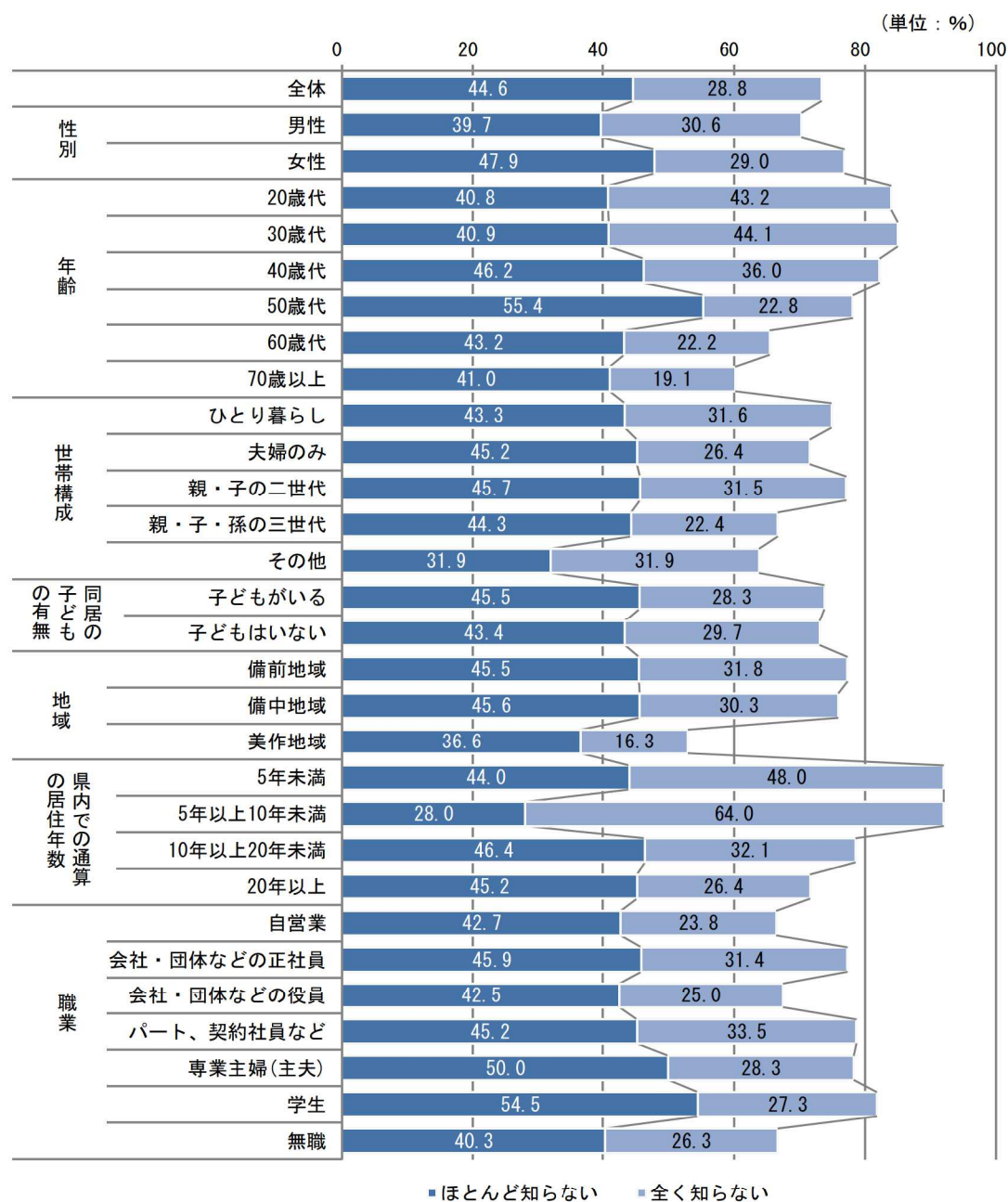
自主防災組織やその活動内容について、どの程度ご存じですか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

自主防災組織に関して、「全く知らない」(28.8%)、「ほとんど知らない」(44.6%)の合計で7割以上を占めるなど、認知度は低い。

自主防災組織の認知度



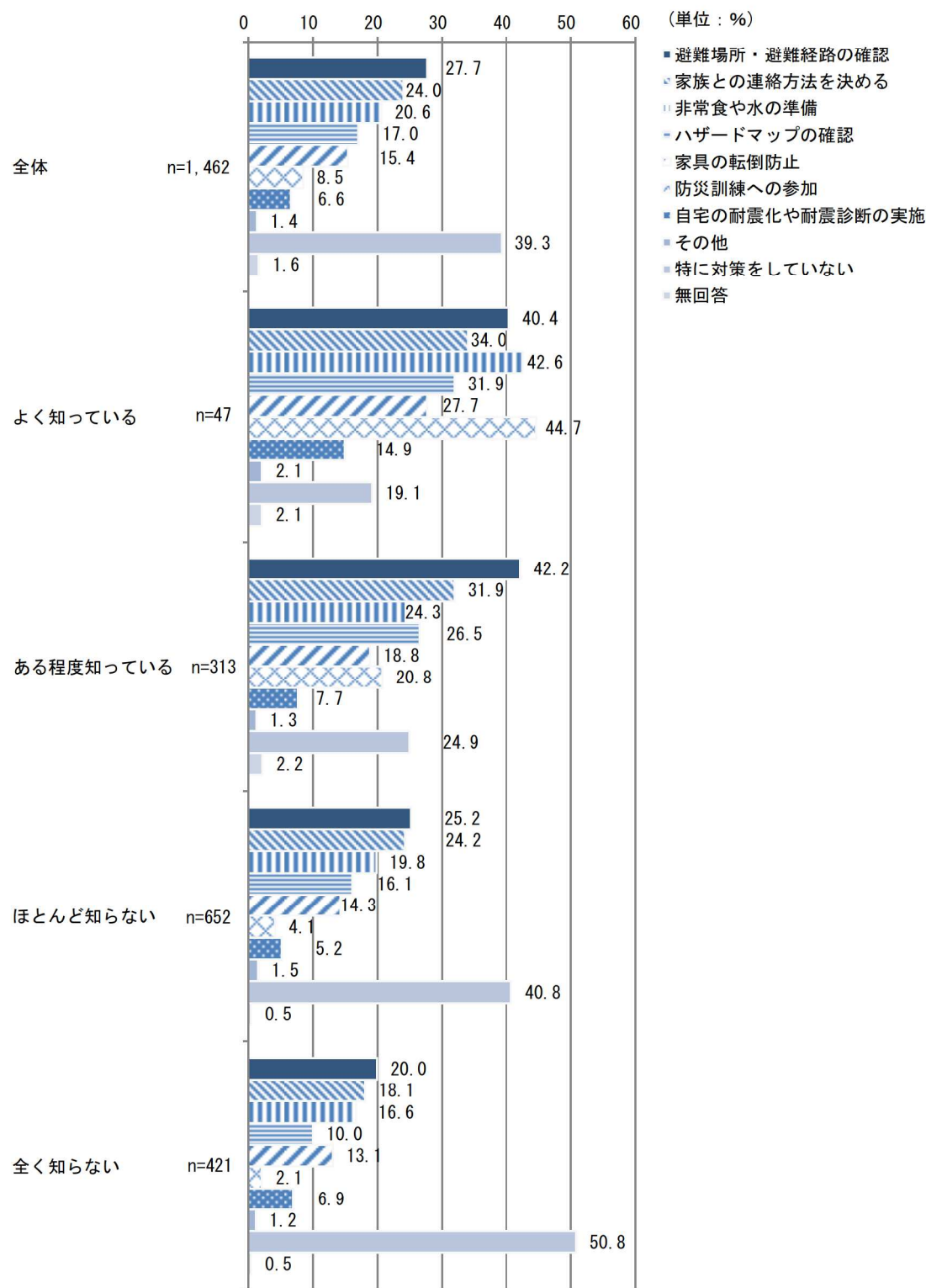
「全く知らない」「ほとんど知らない」の属性別割合



自主防災組織を「全く知らない」「ほとんど知らない」と回答した者を属性別にみると、男性より女性で認知度が低く、20歳代～40歳代の認知度が低い。県内での通算の居住年数10年未満など比較的居住年数の短い層で認知度が特に低い。

本調査項目において、属性による回答状況の違いが最も大きく表れているのは年齢であり、特に20歳代～30歳代では「全く知らない」が最多となっている。20歳代；30歳代の中で属性による回答状況の差が最も大きく表れているのは県内での通算の居住年数であり、20歳代～30歳代の平均で67.3%が「全く知らない」と回答している。

自主防災組織の認知度別にみた自ら実施している防災対策(複数回答)



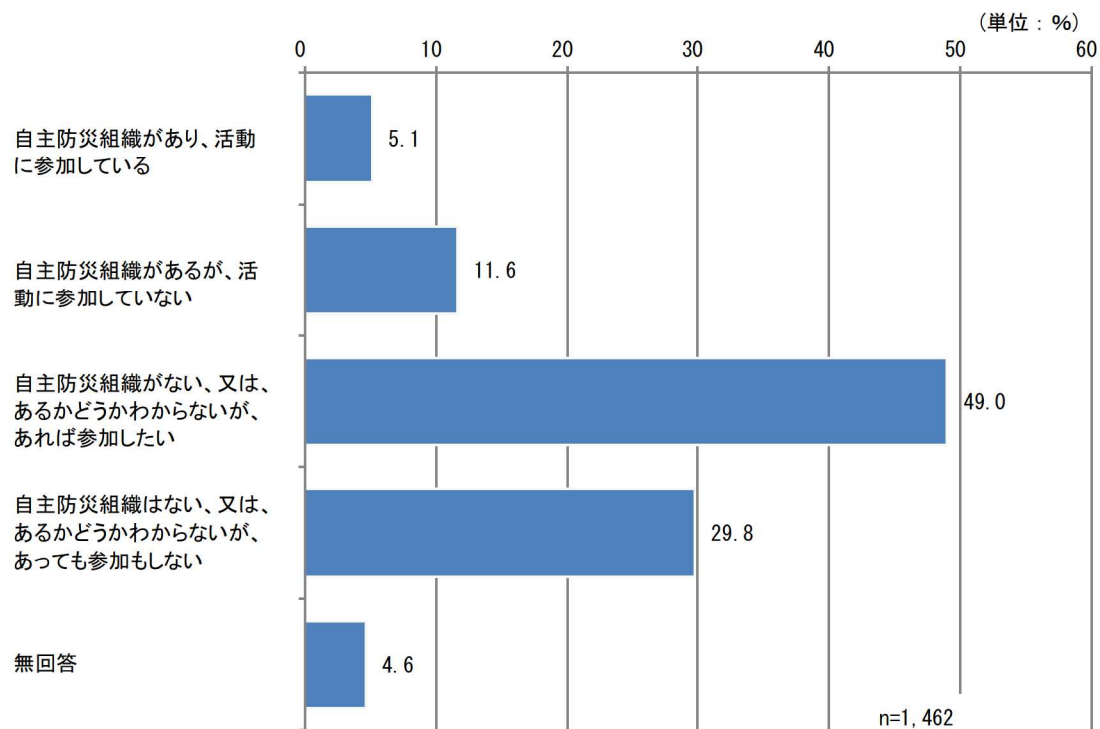
問3の自ら実施している防災対策と問11の自主防災組織の認知度の関係を見るために、クロス集計を実施した。自主防災組織の認知度が高いほど、各種の防災対策を実施している者が多い傾向がみられる。問11の自主防災組織の認知度を目的変数、問3の自ら実施している防災対策を説明変数として重回帰分析すると、「防災訓練への参加」「ハザードマップの確認」「避難場所・避難経路の確認」の順に、自主防災組織の認知度への影響が大きい。

問 1 2

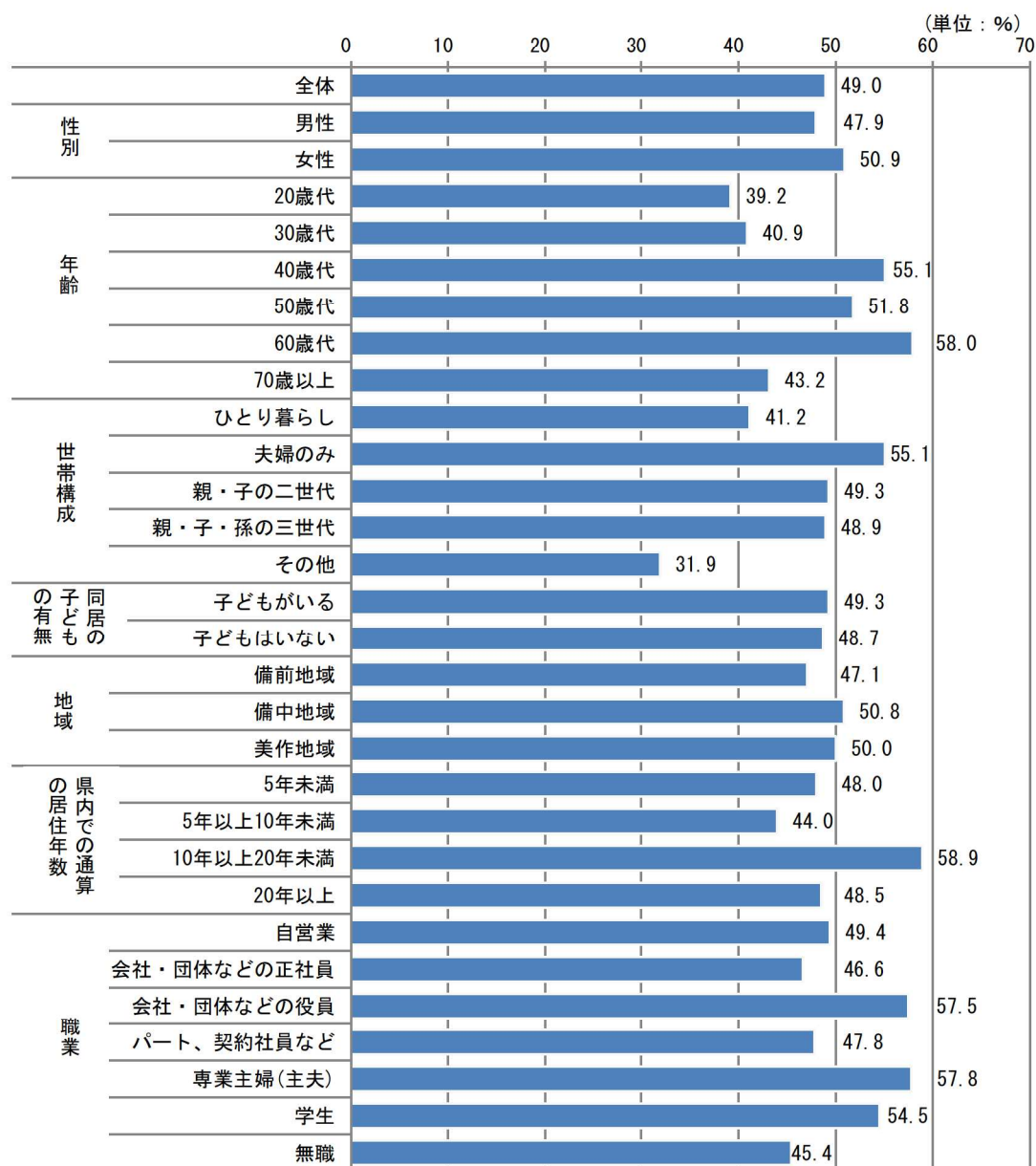
自主防災組織の活動に参加したいですか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

「自主防災組織があり、活動に参加している」者が5.1%にとどまるなど、現時点では自主防災組織の活動は低調である。一方、「自主防災組織がない、又は、あるかどうか分からないが、あれば参加したい」(49.0%)という意見は多く、潜在的には半数近くが新たに自主防災組織の活動に参加する可能性がある。

自主防災組織への参加意向



「自主防災組織があれば参加したい」の属性別割合



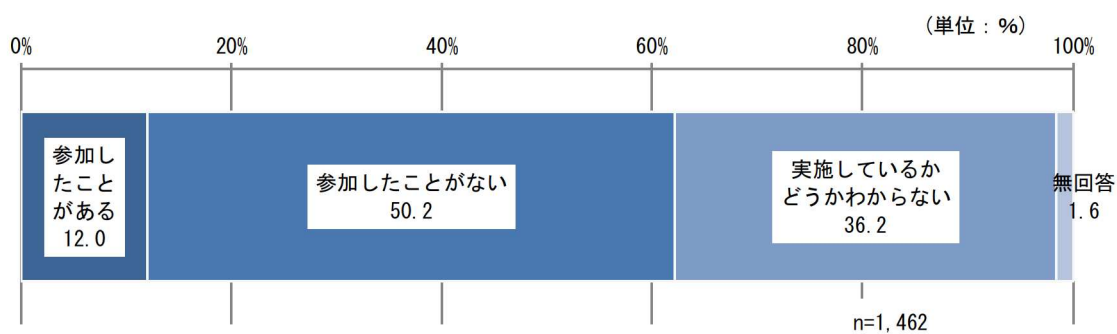
「自主防災組織がない、又は、あるかどうかわからないが、あれば参加したい」と回答した者を属性別にみると、男性(47.9%)より女性(50.9%)が多く、40歳代(55.1%)、50歳代(51.8%)、60歳代(58.0%)で多い一方で、20歳代(39.2%)、30歳代(40.9%)の若年層で少ない。地域別にみると、備前地域(47.1%)でやや少ない。

問 1 3

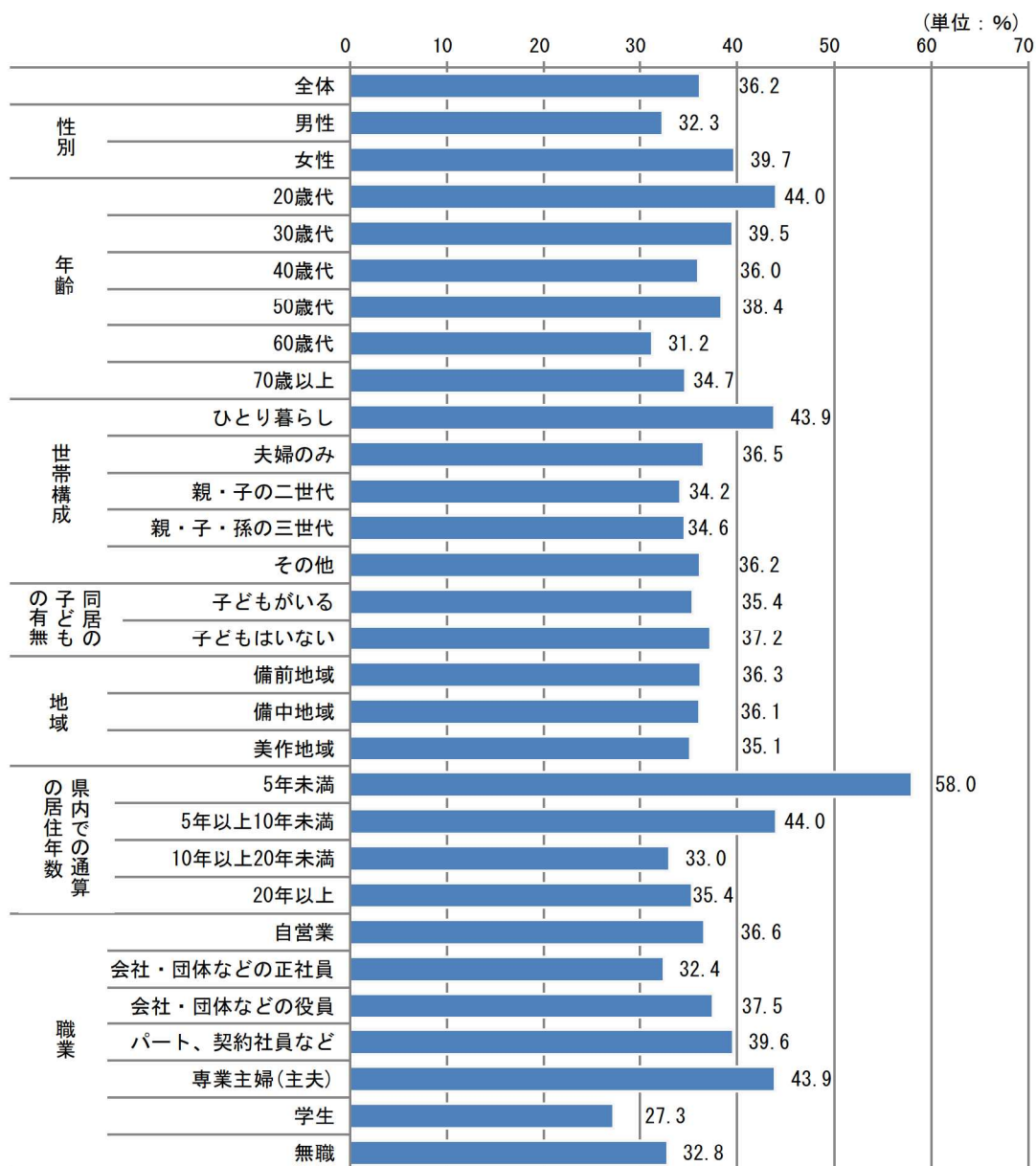
市町村や自主防災組織が実施する防災訓練に参加したことがありますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

防災訓練に「参加したことがある」(12.0%)のは低水準である。そもそも「実施しているかどうか分からない」(36.2%)が3分の1以上を占めるなど、防災訓練への取り組みが県民に周知されていない。

防災訓練への参加経験



「実施しているかどうかわからない」の属性別割合



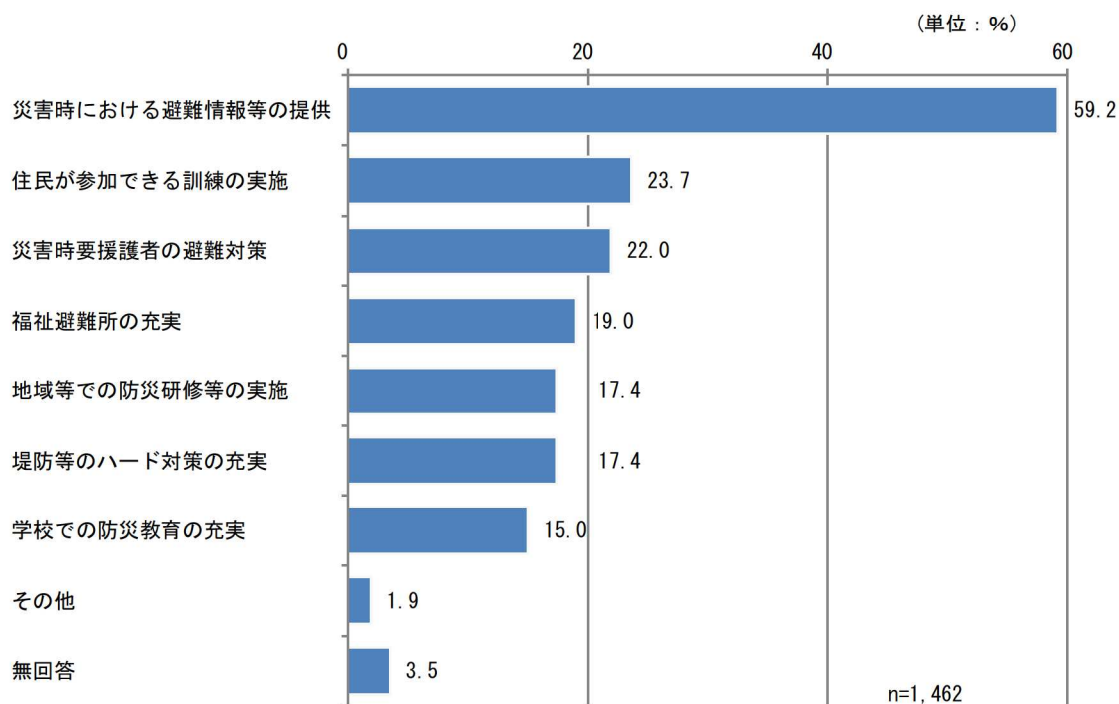
「実施しているかどうかわからない」と回答した者を属性別にみると、20歳代(44.0%)、30歳代(39.5%)や、県内での居住年数10年未満でわからない者が多く、取り組み状況が把握できていないといえる。

問 1 4

今後、岡山県や市町村が実施する防災対策について期待することは何ですか。強く期待するものを上位2つ以内で選び、その番号に○をつけてください。

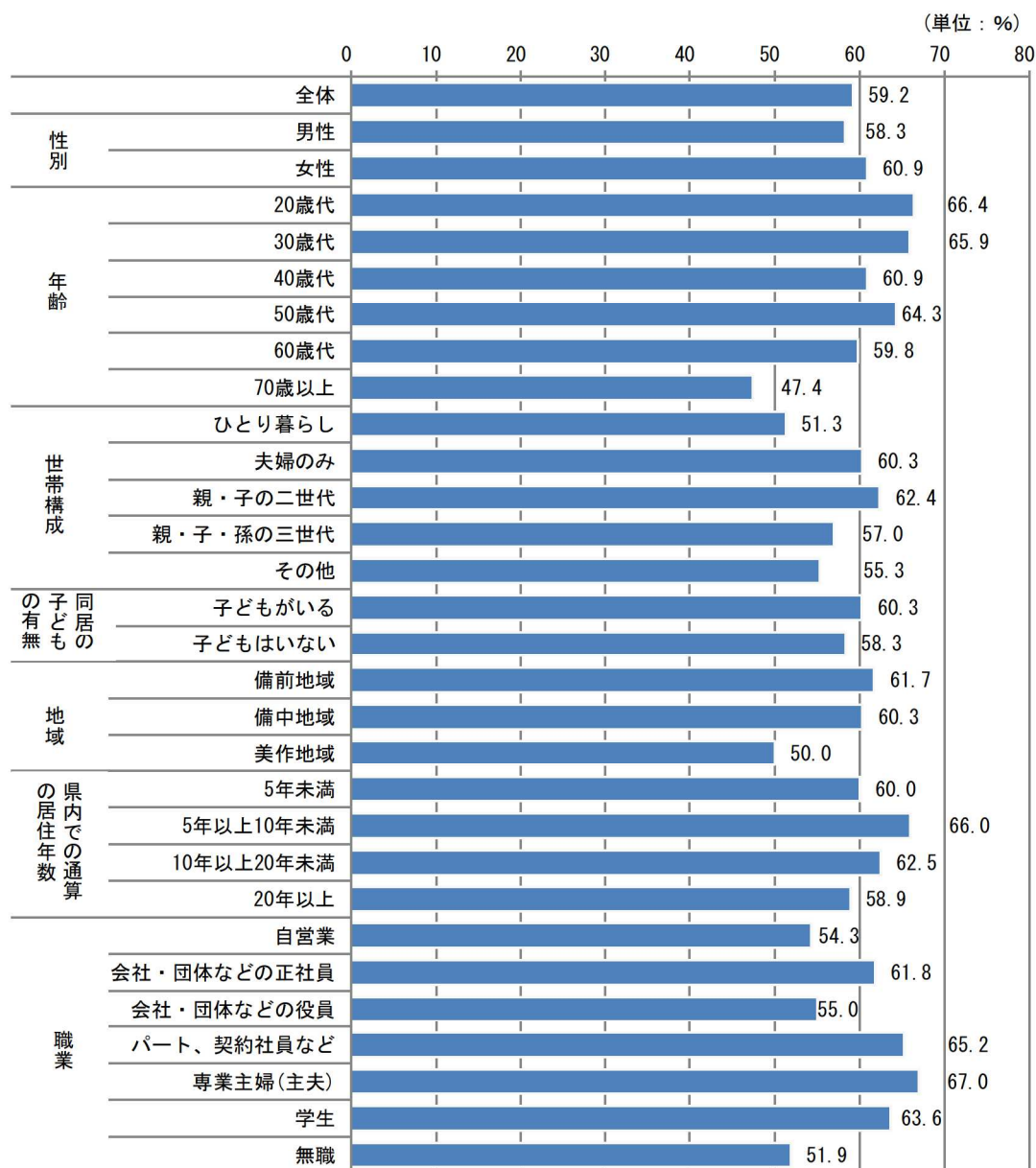
防災対策について期待することは、「災害時における避難情報等の提供」(59.2%)が特に多い。

防災対策について期待すること(2つ以内で回答)



注：その他として記入されていたのは、「期待することはない」(6件)、「備蓄食料の充実」(3件)、「避難所を近くに設置してほしい」「避難に関する説明冊子の配布」(各2件)、「放射能対策」「河川の流木やごみの撤去」「地質調査」「医療機関との連携」「より安全な場所への避難所の変更」「ペットへの対応」(各1件)など

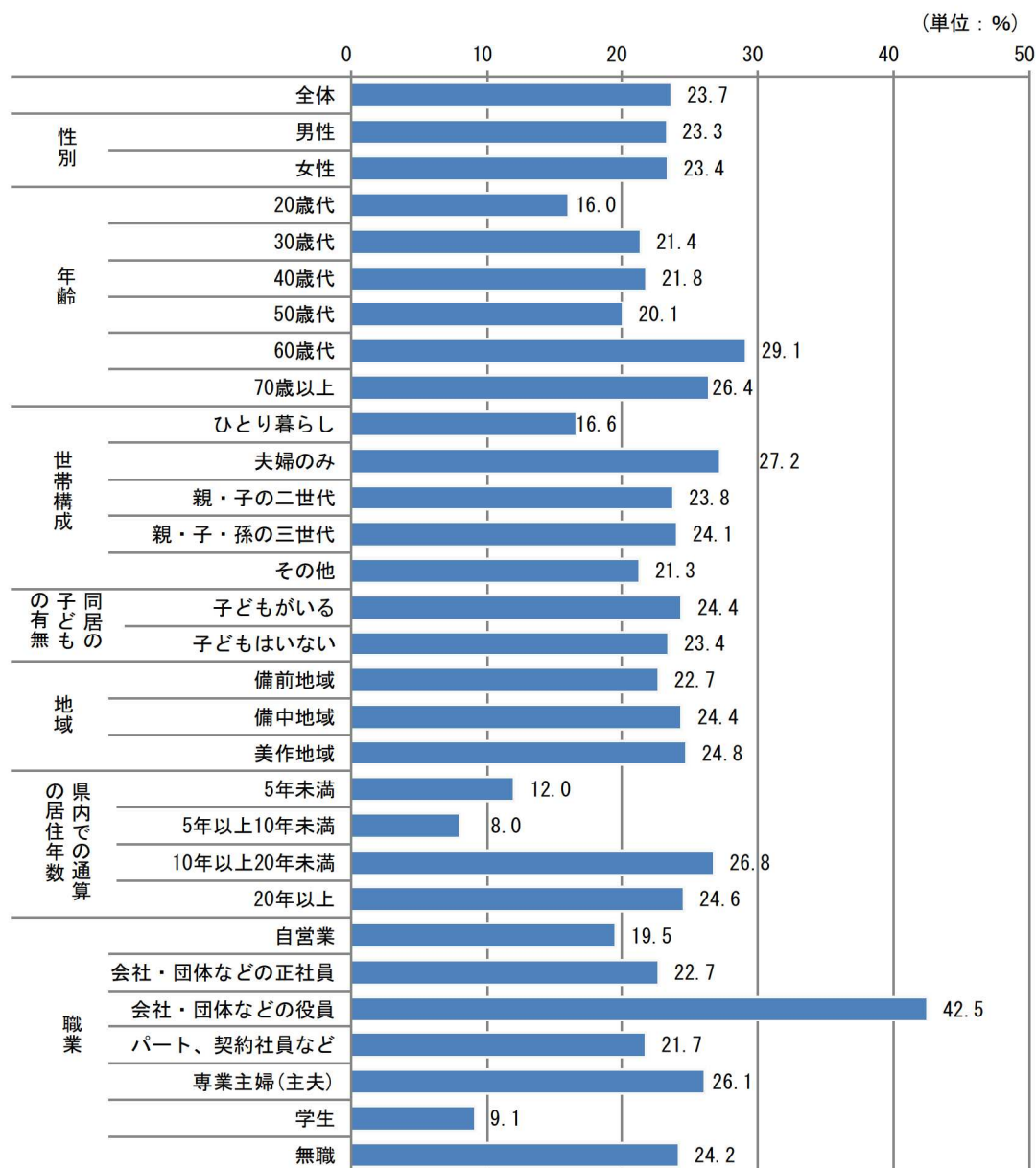
災害時における避難情報等の提供



「災害時における避難情報等の提供」と回答した者を属性別にみると、全般的に期待している者が多い中で、70歳以上(47.4%)、美作地域(50.0%)、無職(51.9%)などで、期待している者がやや少ない。

本調査項目において、属性による回答状況の違いが最も大きく表れているのは年齢であり、70歳以上(52.6%)と比較して、20歳代～60歳代(平均65.0%)で期待している者が多い。20歳代～60歳代の中で属性による回答状況の差が最も大きく表れているのは地域であり、美作地域(52.0%)と比較して、備前地域；備中地域(平均67.0%)で期待している者が多い。

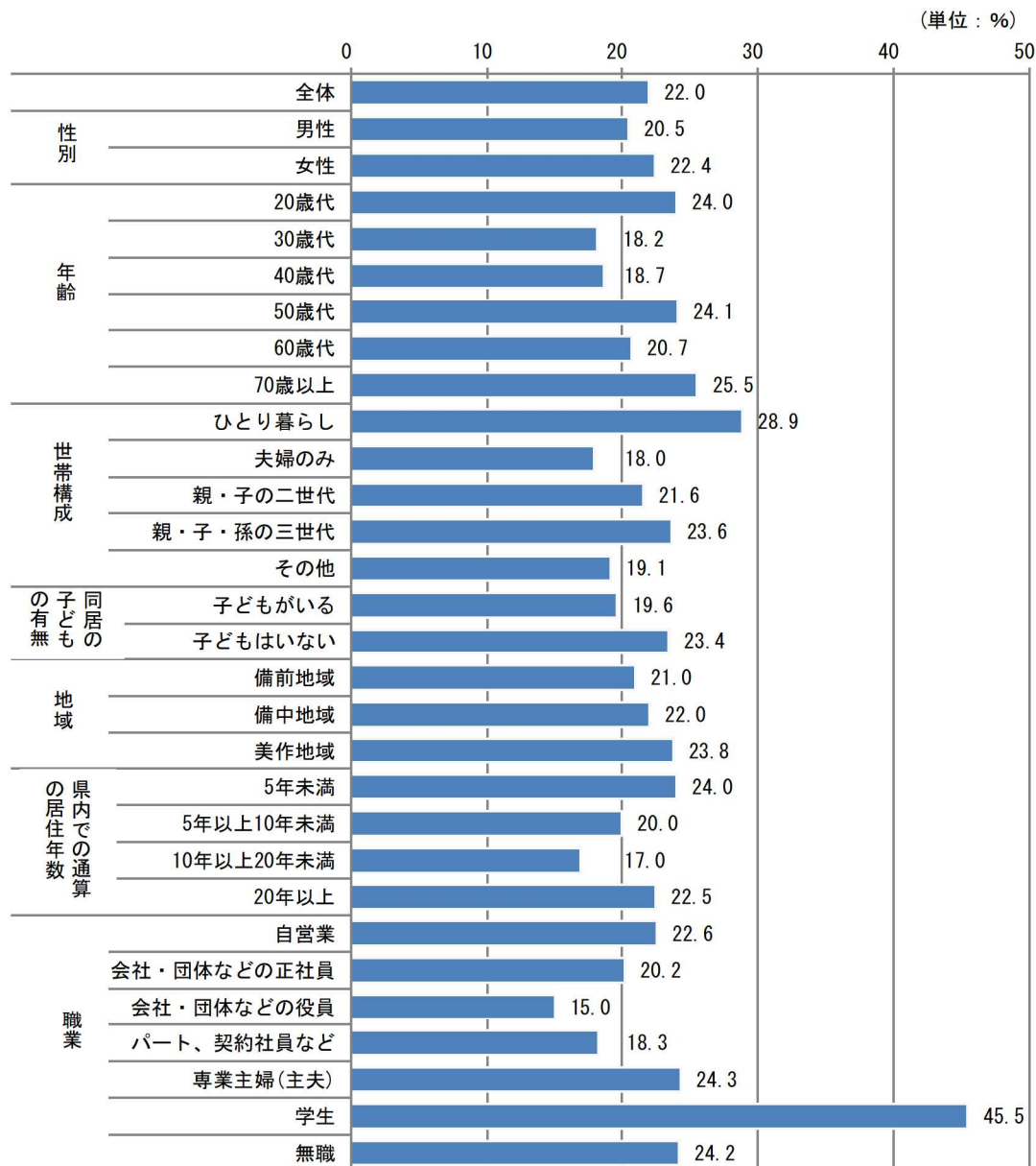
住民が参加できる訓練の実施



「住民が参加できる訓練の実施」と回答した者を属性別にみると、60歳代(29.1%)、70歳以上(26.4%)など高齢者で期待している者が多い。

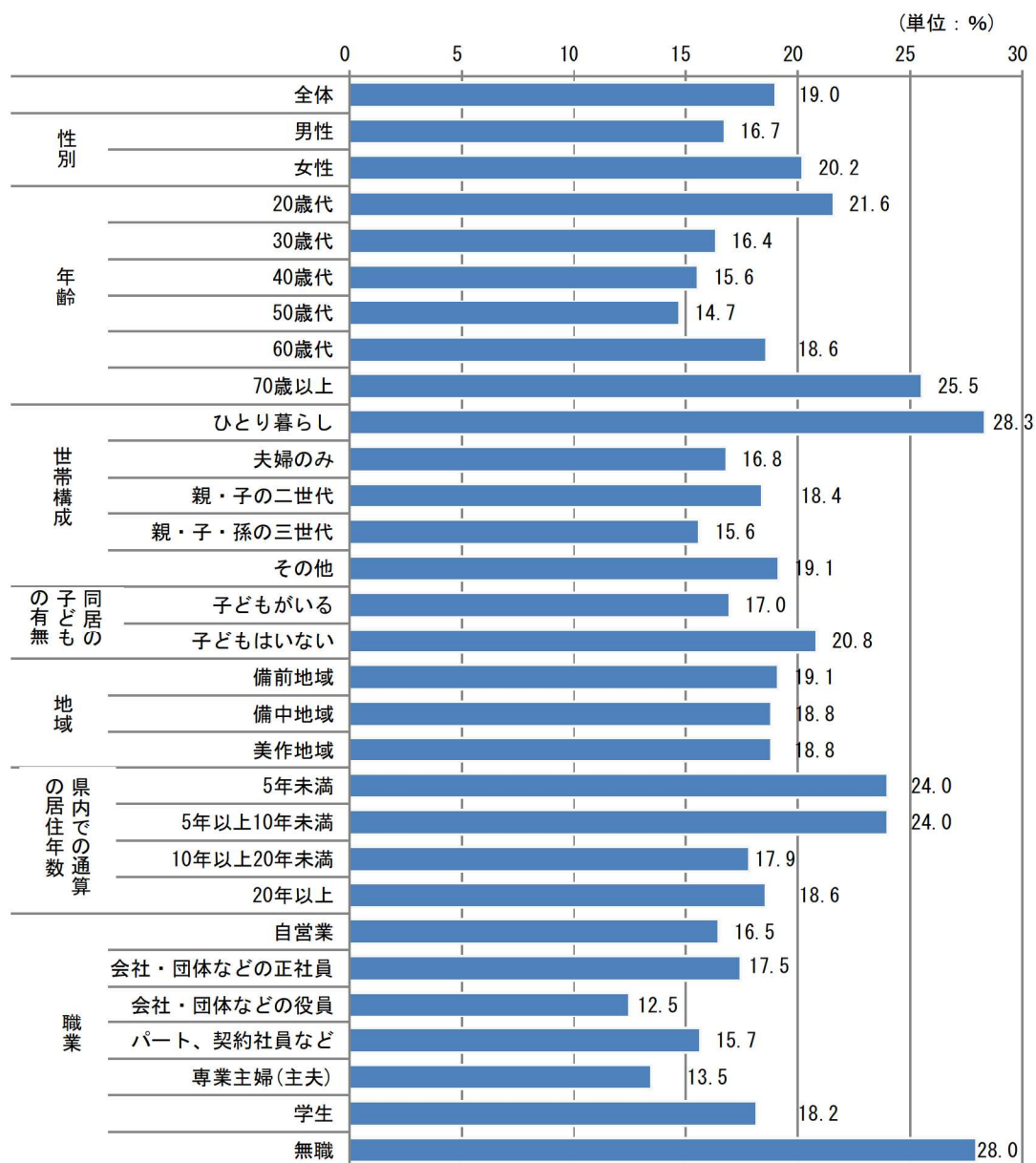
本調査項目において、属性による回答状況の違いが最も大きく表れているのは県内での通算の居住年数であり、10年以上(平均26.2%)の者と比較して、10年未満(平均10.2%)では期待している者が少ない。

災害時要援護者の避難対策



「災害時要援護者の避難対策」と回答した者を属性別にみると、ひとり暮らし(28.9%)の世帯で期待している人が多い。

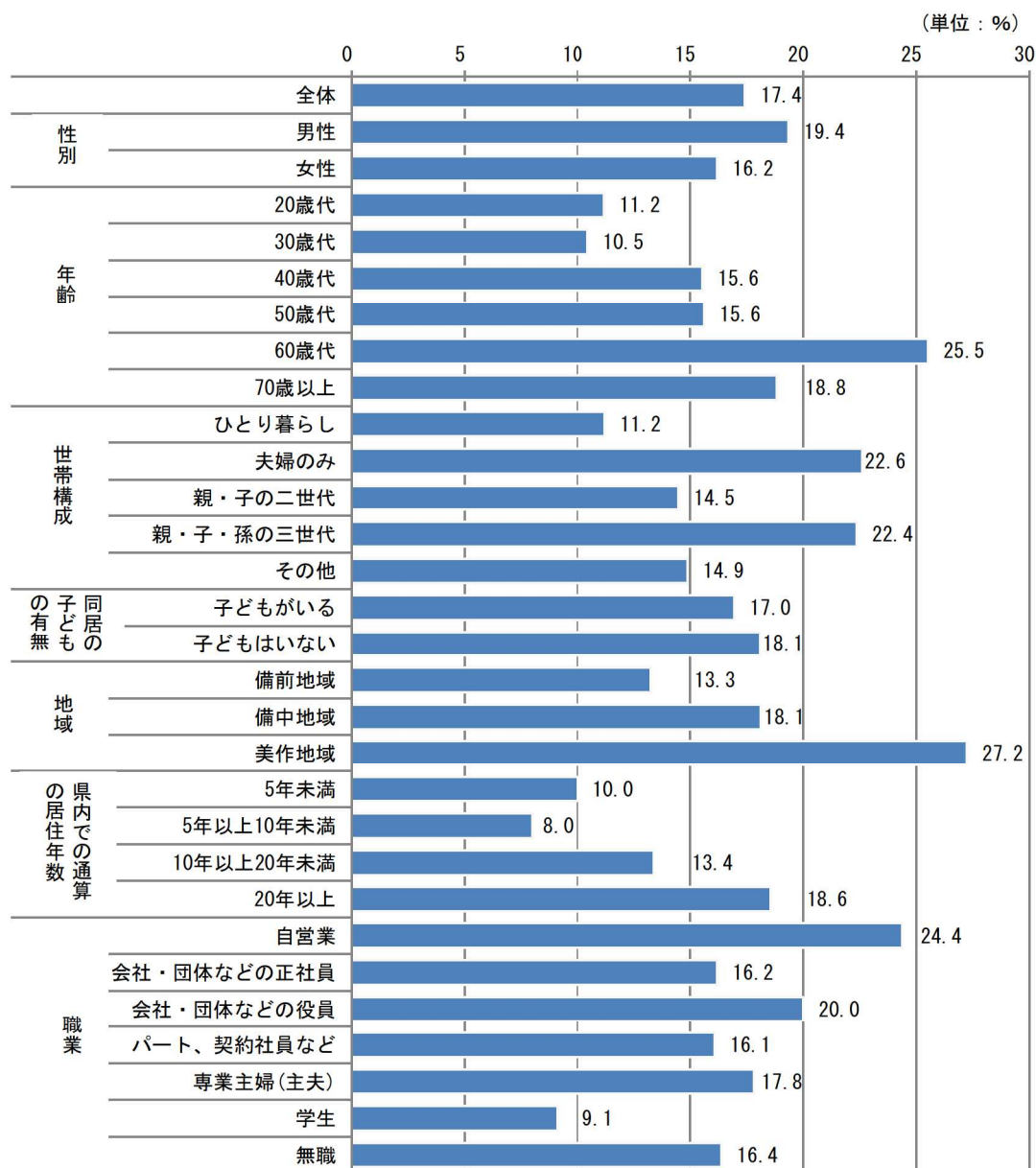
福祉避難所の充実



「福祉避難所の充実」と回答した者を属性別にみると、性別では女性(20.2%)、年齢別では70歳以上(25.5%)、世帯構成別ではひとり暮らし(28.3%)、職業別では無職(28.0%)で、期待している者が多い。

本調査項目において、属性による回答状況の違いが最も大きく表れているのは職業であり、他の職業(平均 16.7%)と比較して、無職(31.6%)で期待している者が多い。無職の中で属性による回答状況の差が最も大きく表れているのは世帯構成であり、ひとり暮らし・その他(平均 44.9%)で期待している者が多い。

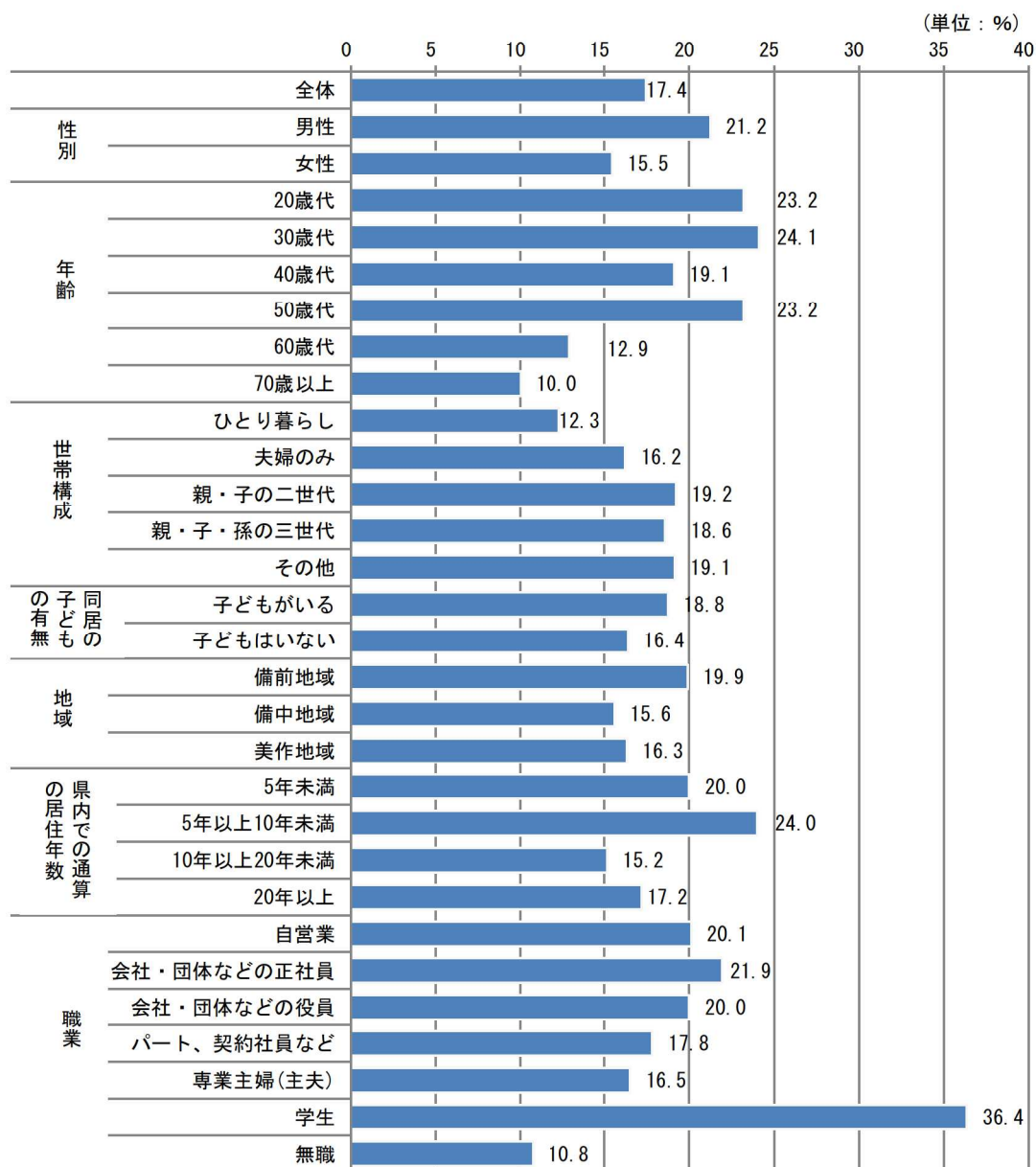
地域等での防災研修等の実施



「地域等での防災研修等の実施」では、60歳代(25.5%)で期待している人が多い。職業別では自営業(24.4%)などで期待している人が多い。

本調査項目において、属性による回答状況の違いが最も大きく表れているのは地域であり、他の地域と比較して、美作地域(30.1%)で期待している者が多い。

堤防等のハード対策の充実



「堤防等のハード対策の充実」を属性別にみると、女性(15.5%)より男性(21.2%)が多く、職業別にみると、無職(10.8%)で期待している人が少ない。

本調査項目において、属性による回答状況の違いが最も大きく表れているのは年齢であり、60歳以上(平均12.7%)と比較して、20歳代～50歳代(平均23.4%)で期待している者が多い。